

食品学科 シラバス目次

1年前期

配当年次	ページ数	科目名	ナンバリング
1年前期	4	食生活論	CK101
1年前期	6	食と環境	CK102
1年前期	10	食と健康	CK103
1年前期	14	科学の基礎	CF101
1年前期	18	リテラシー（演習を含む）	CF102
1年前期	22	自己表現法	CC101
1年前期	26	日本国憲法	CS101
1年前期	34	化学	CN101
1年前期	42	有機化学	CN103
1年前期	44	生物学	CN102
1年通年	48	情報処理演習 I	CI101
1年前期	54	体育実技	CH101
1年通年	56	スポーツ・リクリエーション	CH102
1年前期	58	英語 I	CL101
1年前期	62	フランス語 I	CL102
1年前期	66	中国語 I	CL103
1年前期	70	韓国語 I	CL104
1年前期	112	基礎調理実習 I	FC111
1年前期	122	フレッシューズセミナー （食の世界入門）	FM111
1年～4年	124	食品学科総合実習	FM121

食生活論

(2単位) (食品学科)

開講時期 1年・前期
担当者氏名 荒木 裕子

◆授業概要

生活における食が健康に果たす役割を理解するとともに、日本や地球全体の食料生産および消費活動の課題にも関心を持ち、解決策を考える力をつけることを目的とする。そのために、健康的な食生活のあり方を考え、自らの食生活と照らし合わせて改善すべき点を探る。また、日本および世界の食文化に目を向け、食の多様性、食行動の特徴、生活文化との関わり等をとらえていく。食生活にみる地域の特徴については、日本の郷土料理、葛飾の特徴的な食文化や世界の食事様式等を題材にする。

◆到達目標

1. 健康的な食生活の要件を理解する。
2. 自分の食生活を見直し、より健康な食生活を営む力を身につける。
3. 食生活の歴史を踏まえ、食生活にみる地域の特徴や日本の食事様式についての正しい認識を持つ。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	食生活の概念	ガイダンス 食生活の概念 食べることの意義 自分の食生活を振り返る	毎日、シラバスを読み、授業内容を確認しておく。 教科書 (p1~8) を読む。(30 分) 復習 授業内容をふまえて要点をまとめる。(60 分)
2	食生活と健康(1)	食生活の機能 食生活を構成する要因	予習 食の嗜好性について考える。好きな食べ物、嫌いな食べ物その理由をまとめる。(60 分) 復習 授業内容をふまえて要点をまとめる。(60 分)
3	食生活と健康(2)	現代社会の食生活の問題点 幼児の朝食欠食の問題点 ボディイメージとダイエット	予習 教科書 (136~141) を読み、自分の1日の食事を記録する。(60 分) 復習 ボディイメージとダイエット志向についてまとめる。(120 分)
4	食生活と健康(3)	食生活と生活習慣病 日本人の食事摂取基準 食品成分表の見方	予習 生活習慣病と食事についてまとめる。(60 分) 復習 自分のランチの栄養について考察する。(60 分)
5	世界の食生活史	世界の食文化とその歴史 食事作法 (マナー) と禁忌 (タブー)	予習 食の禁忌についてまとめる。(60 分) 復習 各文化圏の「食法」についてまとめる。(60 分)
6	日本の食生活史	日本の食生活の変遷	予習 教科書 (p118~124) を読み、我が国の食生活の変遷について調べる。(60 分) 復習 台所の変遷についてまとめる。(60 分)
7	和食文化の特徴	和食文化の4つの特徴	予習 ユネスコ無形文化遺産に登録された和食の特徴を調べまとめる。(60 分) 復習 懐石料理について調べる。(60 分)
8	日本と世界の食生活 (1)	グループワーク：世界の食事についての調査 個人ワーク：日本の郷土料理調べ	予習 特定の国の食事調査内容をまとめる。(60 分) 復習 特定の国の食事についてパワーポイントにまとめる。(60 分)
9	日本と世界の食生活 (2)	グループワーク：発表準備、リハーサル 個人ワーク：日本の郷土料理まとめ	予習 特定の国の食事について、調査内容をまとめる。(60 分) 復習 調査内容を確認し、発表できるよう練習する。(60 分)
10	日本と世界の食生活 (3)	グループ発表と評価	予習 パワーポイントで発表準備する。(60 分) 復習 発表を振り返り、興味のある国の食事について追加調査しまとめる。(60 分)
11	食品の安全と食生活	食の安全と食環境 食料供給体制と汚染 食生活と安全情報	予習 教科書 (P148~156) を読み、食環境の要因についてまとめる。(60 分) 復習 授業内容をふまえて要点をまとめる。(60 分)
12	食の視点からの SDG s	SDGs と食生活 フードファディズム	予習 教科書 (206~220) を読み、SDGs についてまとめる。(60 分) 復習 授業内容をふまえて要点をまとめる。(60 分)
13	現代社会と食生活	特殊環境時の食事 (災害食について)	予習 教科書 (P220~225) を読み、災害と食生活についてまとめる。(60 分) 復習 災害時の食事の重要点をまとめる。(60 分)

14	地域の食文化	東京下町の食文化 ー地域の風土や歴史と食の関わりー	予習 東京下町の食やソウルフードについて調べる (60 分)
			復習 授業の内容をまとめる。(60 分)
15	まとめ	世界の食糧問題 エシカル消費を考える 授業のまとめ	予習 エシカル消費とは何か調べる。(60 分)
			復習 今まで学んできた内容を踏まえ、今後の食生活のあり方について考えまとめる。(60 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
食文化/食育・食生活論	浜口郁恵他	講談社サイエンティフィク
新食品成分表 FOODS 2025		とうほう

◆参考書

書 名	著 者	発行所
白熱教室 食生活を考える	金子佳代子・松島悦子 編著	アイ・ケイコーポレーション
世界の食事	銀城康子企画・文	農山漁村文化協会
世界の食事文化	石毛直道	ドメス出版
近現代の食文化	石川寛子・江原絢子	弘学出版
日本食の文化	江原絢子編	アイ・ケイコーポレーション

◆関連科目

食と環境、食文化概論、調理学Ⅰ・Ⅱ、食品学各論、栄養学Ⅰ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	
レポート	20	実技 (発表・コミュニケーション)	20
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)「学習に取り組む姿勢・意欲」は、授業内での発言・参加状況などを総合して評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

学習の振り返りのためのプリントを配布して要点の復習を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

大学で食品に関わる領域を学ぶ上で必要となる基礎的な知識を身につけます。

自分の食生活や食習慣に目を向けるとともに、日々、社会で起こっている事象にも関心を持って、実生活と授業を結びつけて考えるようにしてください。

◆オフィスアワー

受付時間：授業終了後に対応します。

受付場所：食品学第1研究室

上記で対応できない場合：電子メールで対応します (araki@tsc-05.ac.jp)

食と環境

(2単位) (食品学科・管理栄養学科)

開講時期 1年・前期

担当者氏名 篠原 優子

◆授業概要

健康であるためには、豊かな食生活とそれを可能とする環境が必要である。現在の食環境を考える場合、自然環境問題や地球環境問題、それに人口問題も考慮する必要がある。環境汚染物質が生態系に影響を与え、健康被害を引き起こす現状を解説し、食の安全について考える。また、食に関する安全性の問題や食品事故や偽装等の問題を取り上げ、食に関する課題を考える。

◆到達目標

1. 食料生産の現状と自然破壊の現状およびその原因を理解することができる。
2. 環境が汚染される原因を知り、その対策を考えることができる。
3. 食の安全とは何かを多方面から考えることができる。
4. 食品に関する事故の原因や背景などを理解することができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	様々な環境問題	地域および地球規模での環境問題	予習 環境問題を調べる。(60分)
			復習 環境問題の発生するメカニズムを理解する。(60分)
2	食と環境の関連性	食と環境の関連性	予習 食物連鎖について調べる。(60分)
			復習 食物連鎖について復習し、基本的な用語をとめる。(60分)
3	公害病	4大公害病	予習 水俣病について調べる。(60分)
			復習 身近な化学物質の発生源、生物濃縮についてまとめる。(90分)
4	食と海洋汚染	海洋汚染によりひき起される生態系への影響	予習 海洋生物の異変を調べる。(60分)
			復習 有害化学物質が海洋汚染を通して海産物へ与える影響をまとめる。(60分)
5	食と生産環境	環境変動が食料生産に与える影響	予習 世界的な食料需給と供給のバランス、食料自給率について調べる。(60分)
			復習 自然環境と食料生産との関わりをまとめる。(60分)
6	食のリサイクル	日本の食料生産環境、食品廃棄の現状	予習 食品廃棄、賞味期限と消費期限について調べる。(60分)
			復習 食品製造や廃棄物問題を復習し、家庭内食品廃棄について調べる。(120分)
7	1～6回の総括	テーマに沿ってグループディスカッション	予習 1～6回目の復習(90分)
			復習 授業内で発表された意見をまとめる(60分)
8	食と衛生環境(1)	細菌やウイルス等による食中毒	予習 微生物について調べる。(60分)
			復習 食の安全性について復習し、食材の扱い方を確認する。(90分)
9	食と衛生環境(2)	自然毒、化学物質による食中毒菌、BSE	予習 植物や魚類による食中毒を調べる。(60分)
			復習 食の安全性について復習し、食材の扱い方を確認する。(90分)
10	食の供給システム①	食品の流通過程における安全管理	予習 食の安全管理について調べる。(60分)
			復習 生産から販売に至る過程の安全管理について復習し、まとめる。(90分)
11	食の供給システム②	HACCPシステムを用いた安全管理	予習 食品製造における HACCP システムについて調べる。(60分)
			復習 一般衛生管理と HACCP について復習し、まとめる。(90分)
12	食と生活環境	社会構造変化の食への影響 13回目のグループ分け、テーマ決定	予習 内食、中食、外食の利点、欠点をまとめる。(60分)
			復習 社会構造変化が食に与える影響についてまとめる。(90分)

13	グループワーク(1)	授業で取り上げた諸問題について実例を調べまとめる	予習 自分のグループのテーマについて調べる(60分)
			復習 調べた内容をまとめる。(60分)
14	グループワーク(2)	発表用資料の作製	予習 発表用資料の構成を考える。(90分)
			復習 発表資料を完成させる(60分)
15	プレゼンテーション	グループごとに発表、総括	予習 発表の練習をする(60分)
			復習 食と環境の関連性について考え、まとめる(120分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
講義の都度資料を配布する。		

◆参考書

書 名	著 者	発行所
必要な場合は、講義の中で紹介する。		

◆関連科目

食生活論、微生物学、化学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	30
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

グループワークでは、与えられたテーマを調査しグループディスカッションの結果をスライドにまとめ、発表を行います。積極性や発表内容により評価(最高30点、最低0点)します。学習に取り組む姿勢は、提出物、授業内のグループディスカッションでの貢献度により評価します。

◆受講上の注意事項及び助言

食と環境関連のニュースに注目すること。

欠席者には、課題レポートを課します。未提出の場合は、減点しますので注意してください。

◆オフィスアワー

篠原 時間・場所：授業日の16:20～17:00。食品学第2研究室(6号館3階)。

上記で対応できない場合：電子メール(shinohara-y@tsc-05.ac.jp)で質問を受け付けます。

食と健康 (2単位) (食品学科)

開講時期 1年・前期
担当者氏名 柴田 隆一

◆授業概要

食と健康に関わる「正しい食と健康の情報や知識」を身につけられるように、「食事管理」、「人の行動」、「ライフステージ」、「疾病予防」、「社会と環境」それぞれ科学的な視点から学んでいく。
マスメディアやSNS等の情報に戸惑うことなく、自身の健康に必要な食生活の基本を身につける。

◆到達目標

1. 食がどのように健康に影響するかを知る。
2. ライフステージ・疾病・食をめぐる社会環境についての正しい知識を身につける。
3. 自身の食と健康に対する態度や行動を改善できるようになる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	ガイダンス 食事管理と健康①	オリエンテーション 食べることの意義 (食べることの意義、食事の基本、生体リズムと食事)	予習 食べること・食事の基本について考える (60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する (60分)
2	食事管理と健康②	バランスのよい食事 (主食、主菜、副菜、牛乳・乳製品と果物、1日を通してのバランス)	予習 バランスのよい食事について考える (60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する (60分)
3	食事管理と健康③	エネルギーのバランス (エネルギーとは、エネルギー摂取とエネルギー消費、エネルギーバランスのアセスメント)	予習 エネルギーのバランスについて考える (60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する (60分)
4	人の行動と健康①	おいしさ (おいしさとは、おいしさを感じる仕組み、おいしさに影響をもたらす要因)	予習 おいしさについて考える (60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する (60分)
5	人の行動と健康②	食行動 (食べること、行動科学に基づく考え方、食行動の変容を促す技法)	予習 食行動について考える (60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する (60分)
6	人の行動と健康③	情報 (食の安全、食品の表示、健康と情報)	予習 食に関する情報について考える (60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する (60分)
7	ライフステージと健康①	母と子の健康と栄養 (人のライフコース、母親の健康・栄養、母と健康の健康と社会)	予習 母と子の健康と栄養について考える (60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する (60分)
8	ライフステージと健康②	若者世代の健康と栄養 (若者世代の健康・栄養、若者世代の健康と社会、スポーツと栄養・食事)	予習 若者世代の健康と栄養について考える (60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する (60分)
9	ライフステージと健康③	シニア世代の健康と栄養 (シニア世代の身体的変化と健康課題、シニア世代の健康づくり)	予習 シニア世代の健康と栄養について考える (60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する (60分)
10	疾病予防と健康①	生活習慣と栄養 (生活習慣病とその要因、メタボリックシンドロームと内臓脂肪、生活習慣病予防の考え方)	予習 生活習慣と栄養について考える (60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する (60分)
11	疾病予防と健康②	生活習慣病予防と健康・栄養管理 (肥満予防、糖尿病予防、高血圧予防、脂質異常症予防、骨の健康)	予習 生活習慣病の予防について考える (60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する (60分)

12	疾病予防と健康③	気をつけたい健康課題（やせ、貧血、食物アレルギー）	予習 健康課題（痩せ、貧血、食物アレルギー）について考える（60分）
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する（60分）
13	社会環境と健康①	生活と環境（栄養・食生活と疾病構造の変化、少子高齢化における豊かさと健康、持続可能な社会）	予習 SDGsについて考える（60分）
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する（60分）
14	社会環境と健康②	文化と健康（日本の食文化、食文化と健康、食文化と地域社会）	予習 日本の食文化について考える（60分）
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する（60分）
15	社会環境と健康③ まとめ	環境と健康（健康を決める要因、健康と生態学モデル、食環境と健康） まとめ	予習 健康の社会的決定要因、健康の生態学モデルについて考える（60分）
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する（60分）

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
講義の都度資料を配布する		

◆参考書

書 名	著 者	発行所
食と健康の科学 [第3版]	稲山貴代、大森玲子 他	建帛社

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（％）	評価項目	評価比率（％）
定期試験	50	小テスト	35
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲	15		

（補足）2 回目以降の授業開始時に毎回小テストを実施する。各回の合計点を換算し評価する。なお、小テストの追再テストは実施しない。学習に取り組む姿勢・意欲は、「積極的に意見を述べる」「課題に積極的に取り組んでいる」の項目で評価する。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

小テストはその時間内に解答・解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

配布資料を活用し、復習を充分に行うこと。

不明な点は、質問すること。

投影しているパワーポイントをスマートフォン等で撮影することは原則禁止とする。

◆オフィスアワー

受付時間：授業当日、授業終了後～18 時

受付場所：教室または研究室

上記で対応できない場合：研究室前のメッセージボードを活用する。

科学の基礎 (2単位) (食品学科)

開講時期 1年・前期

担当者氏名 鈴木 等 篠原 優子 松原 準之祐

◆授業概要

本学では、食品学科の学生にふさわしい資質を養う目的で、各学年に授業と実験実習科目が開講されている。科学の基礎はそれら科目を受講・理解するためにはなくてはならない基礎科目である。

科学の基礎は、物質についてのサイエンスである化学を中心に基本的な概念を理解し、基礎的な計算問題をマスターすることにより、それらがどのように利用されているかを学ぶことを目的として開講されている。講義は、教科書と授業プリントを用いた形式をとる。各授業項目の内容を解説し、問題演習等を通して内容の定着を図る。適宜、レポート課題または小テストを行う。

◆到達目標

1. 自然界にある物質も人工的に作られる物質も、すべて原子の組み合わせでできていることを理解し科学的な考察力を身に付けることができる。
2. 化学変化を分子レベルで考えることができ、化学反応式で表せることを理解し科学的な考察力を身に付けることができる。
3. 物質量の計算、水溶液の濃度計算、それと酸と塩基の性質を理解し科学的な考察力を身に付けることができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	科学で用いる計算の基礎	出欠、名簿 (人数) 確認、授業方針の説明、科学に必要な計算 (比の計算、指数、対数)、パーセント濃度や密度などの求め方	予習 教科書 p2 を読み、計算の基本的な方法を調べておく (60 分) 復習 パーセント濃度の求め方を教科書にある練習問題を解き習得する (60 分)
2	元素と物質	元素名と元素記号、単体と化合物、物質の三態、同素体、純物質と混合物、混合物の分離	予習 教科書 p4~p11 を読み、単体と化合物と混合物の違いを調べておく (60 分) 復習 代表的な元素名と元素記号を覚え、物質の成り立ちを考える (60 分)
3	原子の構造と周期表	原子の構造 (陽子、中性子、電子) と表記法、周期表の構成、元素の配置	予習 教科書 p12,p13,p18,p19 を読み、原子構造について調べておく (60 分) 復習 1~3 周期の元素と周期表の元素の配置を覚え、原子の性質との関係をとらえる (60 分)
4	電子配置とイオン	電子配置、電子殻、価電子、イオンの生成	予習 教科書 p14~p17 を読み、原子の基本構造と原子モデルの表し方を調べておく (60 分) 復習 電子配置を理解し、各原子の価電子の数を覚える (60 分)
5	イオン結合	イオンでできた物質の名称、組成式	予習 教科書 p20、p21 を読み、イオンの生成と結合を予習する (60 分) 復習 イオンの名称、イオンの価数を覚え、イオン結晶の組成式が書けるようにする (60 分)
6	分子と共有結合	化学式 (分子式、電子式、構造式、示性式) 原子価	予習 教科書 p22、p23 を読み、分子の表記法を調べる (60 分) 復習 元素記号を使って物質を表す化学式とその書き方・読み方を覚える (60 分)
7	化学結合の種類と特徴	イオン結合、共有結合、水素結合、金属結合、配位結合、分子の極性、電気陰性度	予習 教科書 p34、p35 を読み、化学結合のちがいを整理する (60 分) 復習 物質を構成する化学結合の種類ならびにそれに伴う物質の性質を整理する (90 分)
8	原子量、分子量・式量 物質量 (mol)	分子量・式量の求め方 物質量を用いた数の表し方	予習 教科書 p36、p40 を読み、相対質量をとらえる (60 分) 復習 原子量の考え方を理解し、量の扱い方を習得する (60 分)
9	物質量の計算	物質量と質量の関係	予習 教科書 p41 を解いてみて、分からない箇所を把握する (90 分) 復習 物質の質量と物質量 (mol) の関係を理解し、求め方を習得する (90 分)
10	水溶液の濃度計算	質量パーセント濃度、モル濃度	予習 教科書 p46 を読み、溶液の濃度の関係を確認する (90 分) 復習 教科書 p47 の計算問題を解く (90 分)
11	化学変化と化学反応式	化学変化と物理変化、化学反応式、	予習 教科書 p48 を読み化学反応式の係数について調べる (90 分) 復習 教科書 p49、p50 の問題を解く (90 分)

12	化学反応式の量的関係	反応式と物質質量、質量、体積の関係	予習 教科書 p52 を読み、反応式の量的関係について調べる (90 分) 復習 化学反応式の量的関係の問題を解く (90 分)
13	酸と塩基Ⅰ	酸・塩基の定義、酸・塩基の強さ、電離度、	予習 教科書 p58、p60 を読み、酸および塩基の共通の性質を調べておく (90 分) 復習 酸・塩基とは何か知り、酸・塩基の強さおよび酸性溶液・塩基性溶液の強さの表し方をとらえる (90 分)
14	酸と塩基Ⅱ	水素イオン濃度、水酸化物イオン濃度及び pH の求め方	予習 教科書 p62、p63 を読み、 H^+ と OH^- の関係を調べる (90 分) 復習 pH の計算問題を解く (90 分)
15	酸と塩基Ⅲ	中和反応と滴定、中和の量的関係 塩の性質、塩の化学式	予習 教科書 p66、p68~p70 を読み、中和反応の本質的变化を調べておく (90 分) 復習 中和反応と物質質量の関係を理解し、塩の性質を整理する (90 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
高校化学基礎カラーノート	実教出版編修部 編	実教出版

◆参考書

書 名	著 者	発行所
高等学校理科用 高校化学基礎	妻木貴雄、加藤優太、遠藤拓也	実教出版
サイエンスビュー 化学総合資料	実教出版編修部 編	実教出版
99 項目でマスター 生物・化学	山本裕司・大石祐一	建帛社

◆関連科目

化学 有機化学 生化学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	60	小テスト	20
レポート	10	実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足) 定期試験、小テスト、レポートまたはノート提出および授業内に配布する演習プリントなどの提出物の内容に基づき評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

小テストは採点后、返却し、授業で解答を示し解説をする。

◆受講上の注意事項及び助言

高校での履修した理数科目や習熟度を考慮しグループ分けをして、それぞれに合った授業を行い科学の基本を身に付けます。

予習、特に復習に重点をおいて学習し、教科書や資料の内容は、読み・書きを繰り返し覚えましょう。

授業出てくる用語は、意味をしっかりとまとめて理解しましょう。

疑問に思った事項や分からなかった問題は、放置せずに必ず質問して解決するようにしましょう。

◆オフィスアワー

松原 受付時間： 出講日に受け付ける (出講日、時間は学務課に確認を取ること)
受付場所： 学務課内 講師控室

篠原 受付時間： 授業日の 16:20~17:00
受付場所： 授業後の教室または 6 号館 3 階 食品学第 2 研究室

鈴木 受付時間： 新学期開始時に学務課からの提示を確認すること
受付場所： 授業後の教室または 1 号館 3 階 理化学研究室

上記で対応できない場合： 電子メールで質問を受け付けます。

リテラシー (1 単位) (食品学科)

開講時期 1 年・前期
担当者氏名 田所忠弘・有村久春・篠原優子・貝沼章子

◆授業概要

リテラシーとは、「読み書き」や「情報活用」の能力を意味する。この授業では、「大学での学び方」と「大学生活の仕方」を理解することを基本とし、大学における学修の意義を確認する。

その上で、「情報の探し方（検索と収集）」や「文献の読み方」をはじめとする「勉強の仕方」等を学び合い、実際の定着を目指して指導する。本学の専門科目は、「実験」や「実習」の授業が多く、体験と経験を通して知識を蓄積してゆくことを重視している。それゆえ、学生個々が学びの事実をレポートの作成をしたりプレゼンテーションしたりする実践的な力量を身に付けることを目標とする。

授業の進め方は、資料を配布し、全体の流れを講義形式で進めた後に、グループディスカッション、グループワークを行い、発表又はレポート作成等を行う。

◆到達目標

1. 自分にとっての大学で学ぶ意味を確認して、「大学で学ぶ姿勢」を理解し、身に付ける。
2. 授業（予習・授業参加・復習）において、必要な情報を探し（検索）→ 手元において（収集）→ 読み（情報の入力）→ 記録して（記録・記述）→ 理解する（知識の習得・保存）→ 理解したことを表現する（表現・レポート）という「大学での学びのサイクル」を理解し、身に付ける。
3. 大学生は、「学んだことを確認して表現する」ための「レポート」を書く機会が多い。それゆえ、「レポートが書ける」力量を身に付ける。
4. 確認テストなどにより、自らの得意分野や不得意分野に気づき、弱点の補強をすることができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	ガイダンス	大学・学科のポリシー・授業方針・意義ならびに評価について(田所)	予習 学生便覧を読んでもくる (90 分) 復習 再び、学生便覧を読み返し、ノートにまとめる (60 分)
2	大学で学ぶ意味 (1)	大学で学ぶ意味を再確認 (有村) ・テキスト『大学で勉強する方法』の活用法	予習 自分なりに大学で学ぶ意味を考え、ノートにまとめる (60 分) 復習 授業後、大学で学ぶ意味を再構築してノートにまとめる (60 分)
3	大学で学ぶ意味 (2)	大学生の学び:「考える力」「記憶力」を再認識する (有村)	予習 大学生としての考え方や論理について自分なりに考え、ノートにまとめる (60 分) 復習 授業後、大学生の考え方や論理をノートに加筆・修正する (60 分)
4	大学で学ぶ意味 (3)	大学生が読む本の意義を考える (有村) ・大学図書館やネット情報等に学ぶ	予習 大学生にとって本の意義やネット情報の功罪を自分なりに考え、ノートにまとめる (60 分) 復習 情報収集の重要性をノートに取りまとめる。自己主張の大切さを理解する (60 分)
5	大学で勉強する方法 (1)	効果的な勉強方法を学ぶ (有村) ・集中力と時間管理の在り方を修得する	予習 効果的な勉強方法について、集中力と時間の自己管理の在り方をまとめる (60 分) 復習 授業後、大学生の学修方法を自分なりに取りまとめる。学修の自己責任を考える (60 分)
6	大学で勉強する方法 (2)	文章の読み方・ノートの取り方 (有村) ・その具体的な在り方を学ぶ	予習 テキストの文章を読み、自分なり考えをノートにまとめる。小論文を書く (60 分) 復習 効果的なノートの取り方とその自己管理の在り方を小論文にまとめる (60 分)
7	大学で勉強する方法 (3)	学びを自らの実生活に活かす (有村) ・「18 歳成人」「社会人力」を考える	予習 自己のキャリア形成の方向性を自分なり考え、ノートにまとめる (60 分) 復習 18 歳成人の法的意味や実生活の事態をレポートとしてまとめる (120 分)
8	レポート(調査系)の書き方と調査方法(1)	レポートとはどのようなものか解説後、グループごとに与えられたテーマに沿って、調査を行う。(篠原)	予習 レポートとはどのようなものか、調べノートにまとめておく (60 分) 復習 調査結果および自分の意見を個人レポートにまとめる (90 分)
9	レポート(調査系)の書き方と調査方法(2)	グループごとにディスカッションし、発表資料をまとめる。(篠原)	予習 調査結果の発表方法を考える (60 分) 復習 発表に用いた図表をレポートに追加し、個人レポートを仕上げる (90 分)
10	プレゼンテーション	グループ発表・個人レポート提出(篠原)	予習 発表の準備(練習)をする (60 分) 復習 発表時の注意点についてまとめる (30 分)

11	実験授業の受け方	実験授業の受け方、ノートを取り方、レポートの書き方、提出方法を学ぶ。(篠原)	予習 基本的な実験器具を調べる(30分)
			復習 実験授業への臨み方をまとめる。(60分)
12	実験ノート・レポートの書き方 (1)	実験ノートを作成する。 実験を見ながら実験ノートに書き込みを行い、実験ノートを完成させる。(篠原)	予習 実験ノートの書き方を調べる。(60分)。
			復習 自分に合った実験ノートの書き方を見出す。(60分)
13	実験ノート・レポートの書き方 (2)	実験ノートをもとにレポートを作成し提出する。(篠原)	予習 前回の実験に関する文献を調べる。(90分)。
			復習 実験ノートとレポートの違いをまとめる。(60分)。
14	実験ノート・レポートの書き方 (3)	模範レポートをもとに返却されたレポートの加筆・修正をする。(篠原)	予習 実験を行う、実験ノートをとる、レポートを作成するとはどのようなことなのかまとめる(90分)。
			復習 レポートの書き方を確実なものにしておく(60分)。
15	まとめ	これまでの回で学んだことを振り返り、大学での学びを充実させていくための具体案を各自で考えレポートにする (貝沼)	予習 1回目から14回目までの内容全体を見直しておく(90分)。
			復習 授業中に考えた内容を振り返り、今後の自分の履修科目について、科目ごとに取り組み方を考える(60分)。

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
大学で勉強する方法	A・W・コーンハウザー著	玉川大学出版部

※プリント・ワークシート・資料も適宜配布する。

◆参考書

書 名	著 者	発行所

◆関連科目

学科の研修オリエンテーションならび実験実習

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	0	小テスト	10
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	50		

(補足) 学習に取り組む姿勢・意欲とは授業に出ることだけではない。授業時間内での課題作成ならびにプレゼン発表のパワーポイント作成、グループディスカッションなどに積極的に参加していることも評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

小テスト、確認テストは当日または翌週に、提出レポートは翌週以降に返却し、解説をする。

◆受講上の注意事項及び助言

【注意事項】 ①授業に積極的に参加すること ②教員の説明を集中して聞くこと ③分からないことがあったらそのままにせず必ず質問すること ④指示されたことは必ず行動すること ⑤提出物の指定があったら必ず期限を守って提出すること ⑥印刷物は自分でファイルして保存しておくこと、など。

【助言内容】 ①大学での学びは、「自主」が基本である。 ②レディネス (準備) のない「自主」はありえない。③この授業では、「学ぶ姿勢」と「学び方」を重視する。 ④大学4年間の基礎である「当たり前のことが当たり前に見える」ことに真剣に取り組む。

◆オフィスアワー

- ・受付時間：放課後 (16:30～17:00) ただし、会議があればその限りではない。
- ・受付場所：田所：新学期開始時に学務課からの掲示を確認すること。
有村：4号館4階 教育学第1研究室
篠原：6号館3階 食品学第2研究室
貝沼：6号館3階 食品衛生学第1研究室

* 上記で対応できない場合：授業日の昼休みに研究室に来てください。不在の時はメモを残してください。

自己表現法 (2単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期
担当者氏名 並木 通男

◆授業概要

本授業では、各自の経験をふりかえる活動をもとに、他者との対話から得られる相互作用を大切にし、思考を整理するためのフレームワークや、思考を可視化（見える化）するツールを活用した対話の促進を目標とする。対話が活性化するためには、「この場では何を言っても受け入れてくれる。人への好奇心や関心が高まる。」という心理的安全性や安心感が得られる、学びの場のデザインが大切である。

各回の授業では、関係性の質や思考の質を高める場づくりの技法を体験する。また、人が本来もっている力を引き出し、相互に掛け合わせることで大きな力に変化するなど、集団の力を最大限に高めていくファシリテーションについても学修する。ファシリテーションは、カウンセリングやコーチングにも活かせるものである。

学生相互が、それぞれの強みを活かしてリーダーシップ（主体性）を発揮し、コミュニケーション（対話や表現）を通して、日常で起きている出来事の原因を深く探究する習慣を身につけることが大切である。

◆到達目標

1. 他者との協働において、場に応じてリーダーシップを発揮することができる。
2. 自己理解を深めることで、他者の多様性を受け止めながら自己主張や適度な自己開示ができる。
3. だれかのために動こうという主体的な行動ができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	ガイダンス	授業の目的と概要・評価について知る お互いを知るコミュニケーションのワーク 主体的・対話的・深い学びの概要を知る	予習 シラバスの確認 (30分)
			復習 授業の振り返りをまとめる (60分)
2	対話のモード	対話のモード（儀礼・討論・対話・生成的対話）の体験を通して自分のメンタルモデル（価値観や偏見）を知る	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 授業の振り返りをまとめる (60分)
3	対話の技法	グループ対話（ワールドカフェ） 少数での対話（ペアインタビュー）の体験	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 授業の振り返りをまとめる (60分)
4	ファシリテート・グラフィックス (FG 技法)	FG 技法の基本、イラストによる対話の視覚化、対話の促進、ファシリテーションを理解する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 作品課題1、2の作成 (120分)
5	デザインマップ (DM 技法)	DM 技法の基本、発想を広げる、思考を整理する、ノートテイク、コーチングを理解する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 作品課題3、4の作成 (120分)
6	ESD（持続可能な開発のための教育）	SDGs ゲーム体験と振り返りを通して、栄養学、食品学におけるESDを探究する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 授業の振り返りをまとめる (60分)
7	深い学びの考察（システム思考基礎）	ESDから見える社会の繋がり（システム）と現象を生み出す構造に目を向けるワークを通して深い学びを理解する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 授業の振り返りをまとめる (60分)
8	関係性のワーク(1)	インナーワーク（集中・気づき・自覚）の体験と対話によるリフレーミングを理解する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 グループでの自主学習（課題）(90分)
9	関係性のワーク(2)	関係性のレベル（個人の内面のレベル・コミュニケーションのレベル・場のレベル）を体験し、ランクの種類を理解する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 グループでの自主学習（課題）(90分)
10	関係性のワーク(3)	問いの構造（深い内省・発想の促進・可能性の拡大）を体験し、問いを考える視点を理解する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 グループでの自主学習（課題）(90分)
11	協働学習(1)	デザイン思考をもとに、テーマにそったアイデアをグループで企画する	予習 事前配布資料の確認 (30分)
			復習 企画書の整理 (120分)
12	協働学習(2)	ポスターセッションの資料を作成し、発表原稿にまとめる	予習 発表資料の作成 (60分)
			復習 発表原稿をまとめる (120分)

13	協働学習(3)	発表と振り返り（発表者の意図、参加者のフィードバック）	予習 発表のリハーサル（60分）
			復習 発表の振り返り、発表資料の整理（120分）
14	シナリオプランニング	起こり得る未来を思考し、対話を通して主体的、生成的な学びを探究する	予習 前資料の確認（30分）
			復習 グループでの自主学習（課題）（90分）
15	振り返りと生成的な場作り	講座全体を通しての振り返り、未来へ向けての対話を通して、多様な関係性を構築する	予習 振り返り用事前資料の作成（60分）
			復習 課題5の作成（90分）

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
教科書は特になし 資料は必要に応じて授業で配布する		

◆参考書

書 名	著 者	発行所
ワークショップ・デザイン	堀 公俊	日本経済新聞出版社
システム思考をはじめよう	ドネラ・H・メドウズ	英治出版
問いのデザイン	安斎裕樹・塩瀬隆之	学芸出版社

◆関連科目

リテラシー、心理学、栄養教育論、臨床栄養カウンセリング、教育方法論

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（%）	評価項目	評価比率（%）
定期試験	20	小テスト	10
レポート	20	実技（発表・コミュニケーション）	20
学習に取り組む姿勢・意欲（補足）	20	その他（自己評価と振り返り）	10

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法
授業内で行う。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・毎回の授業の振り返りを重視するので、必ず記入すること。
- ・定期試験及び小テストは、授業の振り返りを基本に論述式の内容を出題する。
- ・作品課題の提出を重視するので、必ず提出すること。
- ・11回～13回は企画から発表まで共通グループでの作業のため、欠席しないように注意すること。
- ・授業で使用する資料、課題の詳細、各回の授業の記録などは共有ドライブで提供する。

◆オフィスアワー

受付時間： 授業終了後

受付場所： 授業の使用教室また講師控え室

上記で対応できない場合：授業で指示するメールアドレス及び共有ドライブでの質問コーナーで対応する。

日本国憲法 (2単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期
担当者氏名 岡村 みちる

◆授業概要

日本国の理念や基本的人権・自由、及び統治のための基本的な機関の構成を定めたのが「日本国憲法」である。この授業では、「日本国憲法」の三大原則および各種人権を中心に解説し、さらに、権力分立を採用している日本国の「統治機構」についても簡単に説明する。この講義をとおして、私たちの日常生活に日本国憲法の理念が生かされていることに気づいていただくよう努めたい。

授業方法は、レジュメ・スライドを使った講義を中心に、視聴覚メディアを活用しながら進めていく。途中、短いグループディスカッション(意見交換)もとり入れる予定。(※なお、憲法全体を概説したのち、現代的人権である「社会権」を、個別の「自由権」の前に講義することに注意していただきたい)

◆到達目標

1. 日本国憲法の基本原理と人権について説明できる/判例(実際の事件を裁判所がどう判断したか)を知る
2. 憲法と日常生活のかかわりに関連づけて論じることができる
3. 他者とのコミュニケーションを通じて、憲法にかかわる自分の意見を深く掘り下げることができる

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	ガイダンス オリエンテーション(1) ～世界の人権の状況	授業の進め方、成績評価方法などの説明 ●コメントペーパー提出 →各自の学習に取り組む姿勢・意欲として 教員が把握する	予習 ニュースなどで、憲法にかかわりそうな身近な問題を考えておく (60分)
			復習 社会生活の中の様々な問題に興味を持つ授業の復習及び復習テストを解く(180分)
2	オリエンテーション(2) ～戦前日本の人権状況 憲法とは何か?	憲法が最高法規であることと、その実質的根拠について理解する	予習 日本国憲法の前文を読んでおく (60分)
			復習 授業の復習及び復習テストを解く(120分) 最高法規の意味と根拠を理解する (60分)
3	憲法の特質 権力分立と統治機構	憲法の特質をとらえたうえで、立法・行政・司法という統治機構の全体像を把握する	予習 権力分立の意味を調べておく (60分)
			復習 国会と、内閣の役割を説明できる (60分) 授業の復習及び復習テストを解く(120分)
4	裁判員制度	裁判所の果たす役割と、裁判の国民参加の意味を考える。 ●レポート(鑑賞・感想文)提出	予習 裁判員制度と裁判所とは何か調べる(60分)
			復習 裁判員制度、裁判所の役割を説明できる授業の復習と復習テストを解く(180分)
5	人権の歴史・日本国憲法史	人権の歴史を理解し、日本国憲法の基本原理を大日本帝国憲法との比較により把握する	予習 新旧両憲法を対比して調べておく (60分)
			復習 人権の歴史を理解し日本国憲法の位置づけを把握する(60分) 授業を復習し復習テストを解く(120分)
6	日本国憲法史の制定過程	日本国憲法制定の過程について理解する ●レポート(鑑賞・感想文)提出	予習 日本国憲法の制定過程を調べておく(60分)
			復習 復習テストを解く(120分)。また、日本国憲法制定過程を説明できるようにする(60分)
7	日本国憲法前文を読む。 憲法改正・天皇制 国民主権の意義	憲法前文などの意義について理解するとともに、国際社会の中の日本のありようを理解する。また、主権が国民にある」ことの意味を理解する	予習 日本国憲法前文を読んでおく。国民主権の意味について調べる (60分)
			復習 主権者の役割を理解する。 民主主義の意義について理解する(60分) 授業の復習及び復習テストを解く(120分)
8	環境問題と人権および法	環境問題への法的アプローチについて概説する ★短いグループディスカッション ●レポート(感想文)提出	予習 環境問題について調べ、自分のできることを考えておく(60分)
			復習 環境を守るためには何が必要か考える(180分)
9	個人の尊重と幸福追求権 「新しい人権」	生命・自由及び幸福追求に対する国民の権利について考える。また、日本国憲法制定後に、主張されるようになった、いわゆる「新しい人権」について考える	予習 自分にとっての「幸福追求」とは?(40分) 「新しい人権」には何があるか (40分)
			復習 幸福追求権の重要性を理解し、「新しい人権」の内容や背景も説明できる(40分) 授業の復習及び復習テストを解く(120分)
10	教育を受ける権利(1) ～学校給食と教育 (予定)	社会権について理解する (1) 憲法 26 条、教育を受ける権利(1) ★短いグループディスカッション (予定) ●レポート(感想文)提出	予習 学校や家庭で学んだことを思い出す(60分)
			復習 「食べること」や「学校給食制度」「食育」「教育」について自身の考えを深める(180分)

11	教育を受ける権利(2) 生存権	社会権について理解する (2) 憲法 26 条「教育を受ける権利」(2) 憲法 25 条「生存権」の意義について	予習 「生存権」(生活保護など)や「教育」の果たす役割を考える (60 分)
			復習 「生存権」の重要性を説明できる (60 分) 授業の復習と復習テストを解く (120 分)
12	法の下での平等	憲法 14 条「法の下での平等」 多様性や「共生/共存社会」について理解する	予習 「差別された」「不平等」と感じた事柄を思い出しておく (60 分)
			復習 「平等」という語が持つ様々な意味について説明できる (60 分) 授業の復習と復習テスト (120 分)
13	思想良心の自由と学問の自由	精神的自由について理解する (1) 憲法 19 条「思想良心の自由」 憲法 23 条「学問の自由」	予習 思想良心の自由・学問の自由の意義を理解する (60 分)
			復習 思想良心の自由、学問の自由の内容を説明できる (60 分) 授業の復習と復習テストを解く (120 分)
14	表現の自由	精神的自由について理解する (2) 憲法 21 条「表現の自由」	予習 自分に身近な「表現」を挙げてみる (60 分)
			復習 表現の自由の重要性を説明できる (60 分) 授業の復習と復習テストを解く (120 分)
15	信教の自由と政教分離	精神的自由について理解する (3) 憲法 20 条「信教の自由」について理解する	予習 日本人の(または自分の)宗教観について考えておく (60 分)
			復習 信教の自由、政教分離を説明できる (60 分) 授業の復習と復習テストを解く (120 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所

教科書は使用せず、レジュメ(プリント)を配布する。

◆参考書

書 名	著 者	発行所
読むための日本国憲法	東京新聞政治部	文春文庫
新版 初学者のため憲法学	麻生多聞・岡村みちる他	北樹出版

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50%	小テスト	
レポート	40%	実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10%		

(補足) レジュメ添付の復習テストの類題が、期末テストで多く出るので、紛失しないように注意すること
レポート・コメントペーパー、感想文等は、原則、該当回の講義時間内に作成・提出すること

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポートは、提出の有無ではなく、内容により評価する。

講義回 1 回のコメントペーパーおよび講義回 4 回のレポートは、返却予定

講義回 6 回、8 回、10 回のレポートは、後日、授業内で総評を述べる。

◆受講上の注意事項及び助言(再掲)

レジュメ添付の復習テストの類題が、期末テストで多く出るので、紛失しないように注意すること

レポート・コメントペーパー、感想文等は、原則、該当回の講義時間内に作成・提出すること

◆オフィスアワー

受付時間： 出講日に受け付ける

受付場所： 学務にて

上記で対応できない場合：状況に応じて個別に判断する

化学 (2単位) (管理栄養学科、食品学科)

開講時期 1年・前期

担当者氏名 鈴木 等

◆授業概要

化学は、物質を対象とした学問であり、物質の成り立ちや性質あるいは化学反応を知るための基礎となる科目である。本学の管理栄養学科および食品学科では、2年次以上で栄養および食にかかわる講義と実験ならびに実習を習得させ、各学科にふさわしい資質をもった学生を育成するための教育を行っている。それらの科目を理解するために必要なのが化学であり、重要な基礎必修科目であることを認識し、受講すること。

授業では、初回到授業用プリントを配布し、それに基本に講義を進める。授業内容としては、物質と粒子、それを構成する原子の構造、分子の形とその性質や反応などについて行う。授業内容の理解度や勉強状況を知るために、随時、練習問題を行う。これを基本とし定期試験し評価する。

◆到達目標

1. 物質の構成と化学結合・物質の変化について理解し、科学的な問題解決に利用できる。
2. イオンや分子およびその化学式や構造式が書け、化学反応と物質量の関係を説明できる。
3. 酸や塩基とその反応および酸化や還元反応を理解し、化学量論的な計算をすることができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	物質の構成	元素、名称、元素記号、単体、化合物、同素体	予習 入学前に配布したプリントを解いてみる。 元素記号1～20の元素名を調べ覚える (210分) 復習 1～3周期の元素記号と名称を覚え、物質が元素から構成されていることを理解する (60分)
2	原子の構造	原子と表記法、原子核、電荷、電子殻、電子配置、価電子	予習 原子モデルの表し方を調べる (60分) 復習 原子の構成および電子配置や価電子と元素の性質との関連を理解する (60分)
3	周期表	名称、存在比、周期と族、分類、化学的特長、物性	予習 周期表と物質の性質の関係を調べる (60分) 復習 1～3周期の元素名を覚え、周期表の構成を知り、元素の化学的な特徴を知る (60分)
4	イオン	名称、価数、イオン式、イオンの化合物と名称、イオン結合	予習 イオン結合している物質を調べる (60分) 復習 イオンの表示法、イオン結合からなる化合物とその名称を覚える (60分)
5	分子の構造	化学式 (分子式、示性式、電子式、構造式)、原子価、分子の極性、電気陰性度	予習 電子式の書き方を調べる (60分) 復習 分子の表示法とさまざまな化学式、それぞれの特徴と意義を覚え、理解する (60分)
6	化学結合	共有結合、炭素の混成軌道、配位結合、分子間相互作用	予習 共有結合、特に炭素-炭素結合について調べる (30分) 復習 簡単な分子を形成する化学結合と分子間に働く力の関係を整理する (90分)
7	物質の状態	物質の三態、ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式	予習 気体、液体、固体と熱の関係を調べる (60分) 復習 ボイル・シャルルの法則の式を用いて例題を解く (60分)
8	溶液	溶媒、溶質、溶解度、電解質、非電解質、コロイド溶液	予習 溶液とは何か、種類や性質について調べる (60分) 復習 溶媒と溶質および溶液、さまざまな溶液の特徴と性質を覚える (60分)
9	物質量	粒子の相対質量、原子量、分子量、式量、モルとモル質量	予習 物質量 (mol) について調べる (60分) 復習 式量や分子量の求め方、溶液の濃度の計算方法を覚える (60分)
10	化学反応と反応式	物質の化学反応、反応式、化学量論	予習 化学反応式の書き方を確認する (60分) 復習 化学反応式が書けるようにし、化学反応式の量的関係を利用し演習問題を解く (90分)
11	化学反応と熱	反応熱、エンタルピー	予習 反応熱について調べる (60分) 復習 発熱反応、吸熱反応の熱化学方程式が理解できるようにする (60分)

12	酸と塩基 I	酸・塩基の定義、pH、塩	予習 pH とは何か、調べる (60 分)
			復習 酸・塩基の定義、酸・塩基の種類と化学式、その強さの表示法を整理する (90 分)
13	酸と塩基 II	酸・塩基の価数、中和反応と滴定	予習 中和反応で生じる物質は何か調べる (60 分)
			復習 酸と塩基の価数、中和反応と指示薬、中和反応の量的関係を理解する (90 分)
14	酸化と還元 I	酸化・還元の定義、酸化数、金属のイオン化と酸化還元	予習 酸化すること還元することで何が変化する か、調べておく (60 分)
			復習 酸化・還元と酸化数の関係を覚える (90 分)
15	酸化と還元 II	酸化・還元反応、酸化剤・還元剤、電池	予習 酸化数の数え方を確認しておく (60 分)
			復習 酸化・還元反応の反応式を書いてみる 酸化剤・還元剤を確認する (90 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所

授業内容をプリントにして配布し、それをテキストとして使用する。

◆参考書

書 名	著 者	発行所
高等学校理科用教科書 化学基礎	辰巳 敬 他	数研出版
高校とってもやさしい化学基礎 改訂版	柿澤 壽	旺文社
ニュートン超図解新書 最強に面白い化学	桜井 弘	ニュートンプレス
基礎化学 (栄養科学イラストレイテッド)	土居 純子	羊土社
食を中心とした化学 第5版	北原重登・塚本貞次・野中靖臣・水崎幸一	東京教学社

◆関連科目

化学入門、科学の基礎、有機化学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	80	小テスト	20
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲			

(補足) 私語など授業の進行を妨げる行為については指導し、改善が見られない場合は、減点の対象にします。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

配布した練習問題のプリントは授業で答え合わせをする。

小テストは採点后、授業で模範解答と共に返却し、解説をする。

◆受講上の注意事項及び助言

授業を集中して聞くことが重要。どこ (何) が分からないかを明らかにし、質問あるいは自習・復習する努力をすること。理解できないところは質問し、練習問題で間違えたところは、必ずチェックすること。化学を効率良く学習するコツは、目で読むだけでなく、声に出して読み、手で書くことも一つの方法です。

◆オフィスアワー

受付時間： 授業終了後～17:00

受付場所： 授業後の教室または1号館3階 理化学研究室

上記で対応できない場合： 電子メールで質問を受け付けます。

有機化学 (2単位) (食品学科)

開講時期 1年・前期

担当者氏名 鈴木 等 折口 いづみ

◆授業概要

有機化学は、有機化合物の構造や性質および反応を知るための学問である。有機化合物は、体の構成要素やエネルギー源としてばかりでなく体の働きを制御しあるいはさまざまな材料の構成要素として、まさに人類の衣食住に密接にかかわる重要かつ不可欠な物質である。

授業では、基礎的かつ知っておかねばならない有機化合物の構造・性質・反応について解説する。必修科目であるので、理解度を確保するために随時、練習問題を課す。練習問題や小テストでわからないところを十分復習すること。小テストと定期試験の結果から成績を評価する。

◆到達目標

1. 有機化学の基礎知識を身につけ、演習課題に対し活用することができる。
2. 有機化合物の名称、化学式および構造式を書くことができる。
3. 有機化合物の構造と性質および化学反応を説明できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	有機化学とは	有機化合物の特徴と分類	予習 有機化合物の定義を調べる (30分) 復習 物質としての有機化合物の特徴を理解する (60分)
2	アルカン	アルカンの構造	予習 炭素数 1~10 個までのアルカンの名称を調べる (30分) 復習 有機化合物の構造による分類を理解する (90分)
3	アルカン・構造異性体	アルカン・構造異性体の性質と特徴 ハロゲン化アルキル	予習 代表的なアルキル基の名称についても確認する (30分) 復習 有機化合物には異性体があることを理解する (60分)
4	アルケン	アルケンの構造 (σ 結合、 π 結合) と性質、	予習 飽和と不飽和の違いを調べる (30分) 復習 アルケンの名称と構造について理解する (30分)
5	アルケン シス・トランス異性体	シス・トランス異性体の特性	予習 アルケンの二重結合への付加反応について調べる (30分) 復習 シス、トランス異性体の構造式を書くようにする (60分)
6	シクロアルカン シクロアルケン	シクロアルカン・シクロアルケンの構造と性質	予習 炭素の環状構造がある物質を調べる (30分) 復習 化学構造とその性質を覚える (60分)
7	アルコール	アルコールの構造と性質および反応	予習 アルコールの構造と様々な分類方法について調べる (30分) 復習 異性体による沸点や溶解性などの性質との関係を理解する (60分)
8	エーテル	エーテルの構造と性質および反応	予習 エーテル結合がある物質の構造式を調べる (30分) 復習 アルコールとの違いを確認しながら理解する (30分)
9	アルデヒド・ケトン	アルデヒド・ケトンの構造と性質および反応	予習 ホルミル基・カルボニル基の構造を調べる (30分) 復習 アルデヒド・ケトンの性質や反応を理解する (60分)
10	カルボン酸	カルボン酸の構造と分類および反応、	予習 カルボキシ基の性質を調べる (30分) 復習 脂肪酸の性質と反応を理解する (60分)
11	エステルと油脂	天然での存在と利用、エステル化、けん化	予習 油脂の構造式を調べる (30分) 復習 エステル化とけん化反応、セッケンの生成を理解する (60分)
12	芳香族化合物	ベンゼンとその誘導体の特徴	予習 芳香族化合物の定義を調べる (30分) 復習 ベンゼンの構造と性質、その反応と誘導体の生成を理解する (60分)
13	糖類	糖類の構造の表し方 鏡像異性体	予習 単糖類の構造を調べる (30分) 復習 糖類の還元性について理解する (30分)

14	アミノ酸	アミノ酸の性質と反応 アミノカルボニル反応（メイラード反応）	復習 アミノ酸の構造と性質、その反応と誘導体を確認する（60分）
			予習 1回～14回の授業の分からないところ をチェックする（30分）
15	まとめ	総括	復習 すべての授業の内容をノートにまとめて 見ましょう（120分）
			復習 アミノ酸の構造と性質、その反応と誘導体を確認する（60分）

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所

授業内容をプリントにして配布し、それをテキストとして使用する。

◆参考書

書 名	著 者	発行所
高等学校理科学教科書 化学	辰巳 敬 他	数研出版
99項目でマスター 生物・化学	山本裕司・大石祐一	建帛社
食と栄養を学ぶための化学	有井 康博・川畑 球一・升井 洋至・ 吉岡 泰淳	化学同人
栄養科学イラストレイト 有機化学	山田恭正 編	羊土社

◆関連科目

化学、科学の基礎、食品学総論 生化学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（%）	評価項目	評価比率（%）
定期試験	80	小テスト	20
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲			

（補足）成績は定期試験と小テストの結果により評価する。

分からないところや小テストの間違ったところはよく調べ、質問し、復習して十分理解しておくこと。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

小テストは採点した答案を授業内で返却し解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

1年生で履修する有機化学の内容が本学では、あらかじめ必要な基礎知識になります。この科目は大学で初めて学ぶ有機化学、いわゆる“有機化学の入門”であり、ここで学ぶ内容が食品学、生化学や栄養学など今後の学習に役立ちます。暗記事項は多いものの、構造式は視覚的に捉えたり、物質の性質は官能基のグループごとに覚えたりなど体系的に整理しながら学んでいきます。有機化合物の構造はパズルのピースの組み合わせと考えることもできますので、パズルを楽しむような感覚で有機化学に親しみをもち予習・復習をして下さい。

◆オフィスアワー

折口

受付時間： 授業時間外の9:00～17:00

受付場所： 食品学第1研究室（1号館2階）

鈴木

受付時間： 授業終了後～17:00

受付場所： 授業後の教室または1号館3階 理化学研究室

上記で対応できない場合： 電子メールで質問を受け付けます。

生物学 (2 単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1 年・前期
担当者氏名 酒井 秀嗣

◆授業概要

すべての生物は細胞からできていて、おのおのの細胞は生命活動に必要な要素を備えている。この講義では、まず細胞とはどのようなものか、細胞全般に共通する基本構造と機能を学ぶ。さらに多細胞生物の階層性を理解した上で、細胞分裂と細胞の分化を学ぶ。また、細胞同士の情報連絡の例を学んで、個体調節について理解を深める。これらの学習をとおりて本講義以降の専門科目を学ぶために必要な知識と理解力を身につける。

講義は視聴覚メディア (PowerPoint) を主体に板書を併用して行う。視聴覚教材は学生 SharePoint を利用して提供する。自身の学習に活用して欲しい。

◆到達目標

1. 細胞の構造と機能を理解する
2. 細胞を基礎とした多細胞生物の構造を進化を含めて理解する
3. 細胞間のコミュニケーションと情報の統合を理解する
4. 自然科学の方法を意識して事象を理解し、レポートなどを纏められるようになる

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	0. はじめに 1. 生命とは何か	0-1) 授業の進め方、学習の方法、成績評価 0-2) 科学の方法 1-1) 生命とは? さまざまな概念	予習 復習)・教科書 pp. 3-13 を読む。 ・教科書 p. 10 の(1)-(6)の内容を理解する。 (90)
2	2. 生体を構成する物質	2-1) 生体を構成する元素と分子 2-2) 有機物と無機物 2-3) 水の性質と働き 2-4) タンパク質	予習 復習・配付資料に基づいて生体を構成する物質について理解する。 ・教科書 p. 30 を読み水の重要性を理解する。 ・教科書 pp. 31-32 および配付資料によってアミノ酸について整理し、その立体異性体とペプチド結合を理解する。(90)
3	2. 生体を構成する物質	2-4) タンパク質 2-5) 糖質 (炭水化物) 2-6) 脂質	予習 復習・教科書 pp. 32-33 および配付資料により、タンパク質の構造、機能、変性を理解する。 ・教科書 pp. 35-36 および配付資料により、単糖の構造と立体異性体を理解する。 ・単糖から多糖類までを整理する。 ・脂質とは何かを理解する。 ・脂肪酸を理解する(120)
4	2. 生体を構成する物質	2-6) 脂質 2-7) 核酸	予習・教科書 pp. 33-37 を読む。(30) 復習・リン脂質、糖脂質、ステロイドを理解する。 ・ヌクレオチドと核酸を理解する。 ・遺伝子としての DNA の構造と遺伝暗号を理解する。 ・ATP と高エネルギーリン酸結合を理解する。 ・酵素反応に関わるヌクレオチドを理解する。 (120)
5	2. 生体を構成する物質 3. 生命の起源	2-8) ビタミン 2-9) 無機物 3-1) 化学進化	予習・教科書 pp. 37-39, 121-122 を読む。(30) 復習・教科書 p. 41 および配付資料によりビタミンの働きを具体的に理解する。 ・主な無機物の働きを整理する。 ・生命誕生に必要な有機物合成に関する仮説を理解する。(120)
6	3. 生命の起源	3-2) 生命の誕生 3-3) 細胞進化 3-4) 原核細胞と真核細胞 3-5) 細胞共生 3-6) 多細胞化	予習・教科書 pp. 28-29, 123-124 を読む。(30) 復習・コアセルバートから細胞への仮説を理解する。 ・3つのドメイン (超界) を理解する。 ・核膜の出現を理解する。 ・原核細胞と真核細胞の主な違いを理解する。 ・細胞共生を理解する。 ・単細胞から多細胞への仮説を理解する。 (120) ・第1回目のレポート作成を行う。(210)

7	4. 細胞の構造と機能	4-1) 真核細胞の概略 4-2) 細胞膜	予習・教科書 pp. 19-24 を読む。(30)
			復習・真核細胞の構造のあらましを理解する。 ・細胞膜の構造と流動性を理解する。 ・配付資料によって浸透圧を理解し、細胞膜の半透性と選択的透過性を理解する。(120)
8	4. 細胞の構造と機能	4-3) 細胞核	予習
			復習・核膜と核膜孔、核ラミナ、核小体といった構造を理解する。 ・染色体の構造を理解し、核内のユークロマチンとヘテロクロマチンを電子顕微鏡像で区別する。 ・核小体でのリボソーム形成を理解する。(90)
9	4. 細胞の構造と機能	4-4) 細胞小器官 4-5) 小胞輸送	予習
			復習・粗面小胞体、滑面小胞体、ゴルジ体、リソソーム、リボソームの構造と働きを整理して理解する。 ・ミトコンドリアと葉緑体について理解する。 ・膜構造を持つ小胞による物質の輸送を理解する。(120)
10	4. 細胞の構造と機能	4-6) 三大栄養素の異化 (エネルギー獲得)	予習・教科書 pp. 42-48, 75-79 を読む。(60)
			復習・グルコースの代謝経路を理解する。 ・ミトコンドリアにおけるクエン酸回路と電子伝達系および酸化的リン酸化を理解する。 ・アミノ酸と脂肪酸の異化を理解する。 ・真核生物が進化の過程でミトコンドリアを獲得した利点を考える。(120) ・第2回のレポート作成を行う。(210)
11	5. 生物の階層性	5-1) 細胞の分化 5-2) 動物の組織 5-3) 器官系と属する器官 5-4) 3つの胚葉と器官形成	予習・教科書 pp. 13-15, 63-70 を読む。(60)
			復習・細胞の分化を理解する。 ・動物の4つの組織とその分類を知る。 ・講義では教科書に記載されている器官系を紹介するので、その働きの概略を読み解く。 ・発生による器官の形成を理解する。(90)
12	6. 細胞分裂	6-1) 体細胞分裂と減数分裂 6-2) 細胞周期 6-3) 配偶子形成 6-4) DNA の複製	予習・教科書 pp. 26-27, 54-58, 113-114 を読む。(60)
			復習・体細胞分裂と減数分裂の違いを理解する。 ・卵形成と精子形成の共通点と異なる点を理解する。 ・細胞周期における細胞あたりの DNA 量の変化を理解する。 ・細胞周期での DNA の複製法を理解する。(90)
13	7. 細胞間の情報伝達	7-1) cell to cell communication 7-2) 情報連絡の特異性 7-3) 内分泌系	予習・教科書 pp. 92-95 を読む。(60)
			復習・細胞間の情報伝達を理解する。 ・内分泌器官の分類を理解する。 ・ホルモン分子の化学的分類を理解する。 ・ホルモンの作用の仕方を理解する。(90)
14	7. 細胞間の情報伝達	7-4) 神経系 7-5) ホメオスタシス	予習・教科書 pp. 83-86, 90-91, 95-100 を読む。(90)
			復習・神経細胞の情報伝達を理解する。 ・自律神経の働きを理解する。 ・神経系と内分泌系による体内環境の調節を理解する。(90)
15	7. 細胞間の情報伝達 8. 総まとめ	7-6) 免疫系 7-7) フェロモン 8-1) 総まとめ	予習・教科書 pp. 102-108 を読む。(60)
			復習・生体防御システムを理解する。 ・免疫細胞の情報伝達と分化を理解する。(90) ・授業全体を振り返り、扱った生命現象から生命とは何かを自分なりに考える。(210)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
ヒトを理解するための生物学	八杉貞雄	裳華房

◆参考書

書 名	著 者	発行所
ワークブック ヒトの生物学	八杉貞雄	裳華房

上記参考図書は、図書館に配本されている。

このほか、高校の生物の授業で補助教材として用いた「図録」等があるなら、手元に置くと良い。

◆関連科目

管理栄養学科：栄養生化学Ⅰ、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、食品学総論Ⅰ

食品学科：生化学Ⅰ・Ⅱ、人体の構造と機能、食品学総論Ⅰ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	
レポート	30	実技(発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲		ミニットペーパー	30

(補足)ミニットペーパーは数分で解答できるドリルなどで、授業の振り返りや理解度の自己判定に活用できる。

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

レポートについては解説と講評を行う。評価のポイントは説明するが個人の評価点は公表しない。

ミニットペーパーは課題によって異なるが、正解の提示や解説を行う。

定期試験は不合格者のみに解説を行う

◆受講上の注意事項及び助言

1. 全時間出席することが前提である。万一欠席した場合には、当該箇所の学習を必ず行うこと。
授業実施日に最低限の自己学習課題を学生SharePointに提示する。
2. ノートを用意し、教科書や配付資料に記載されていない事柄などは確実に筆記すること。
今までの経験では、常に筆記できるようにして受講していた学生は総じて成績が良かった。
3. 高校の副教材として使われている図録集などは参考になる。持っていたら活用されたい。
4. 週に1回の授業だが、テーマが広範囲にわたるので気付いたときには内容は随分な分量になる。
確実に復習していくことが復習は必須である。
分からないところは放置しないで、質問するなどしてその都度解決すること。

◆オフィスアワー

受付時間：学務課に相談して下さい

受付場所：学務課

上記で対応できない場合：質問等については専用のメールアドレスを開示します

情報処理演習 I (2単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期～後期

担当者氏名 岡本 直也

◆授業概要

今日の IT 社会において情報処理技術を身につけることは必要不可欠であり、パソコンと向き合うことを避けては通れない。本授業では、パソコンの基本ソフトである **Windows** の機能と操作方法および電子メール・パソコン周辺機器の使い方を一通り学習した後、検索エンジンを利用して目的にあった情報を効率よく集める「情報収集」、**Office**・画像編集ソフトを利用した「情報編集・加工」の活用方法を習得する。後期は、**Excel** の数式入力的前提知識として必要となる、基礎的な数学演習も行う。授業計画と並行して、**e-learning** を利用したショートカットキー、タッチタイピング、数学演習を繰り返し行う。授業は各回、パソコンを用いた演習形式で行われ、一人一人のペースに応じて課題を進める。

◆到達目標

1. **Windows**、**Office**、パソコン周辺機器の基本的な操作ができる。
2. **Word**、**Excel** に関する用語および操作方法が説明できる。
3. パソコン操作、疑問・トラブルを情報検索等により効率的に処理することができる。

◆授業計画 (前期)

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	ガイダンス	パスワード変更、Web メール、添付ファイル	予習 「情報システム利用手引き」を読み、学内 LAN の利用ルールを理解する。(20 分) 復習 ログイン・パスワード変更・メールの送受信方法を実践して覚える。(20 分)
2	電子メール、周辺機器の利用方法	携帯電話へのメール転送、プリンター、スキャナー、USB メモリ、SharePoint の利用方法	予習 スキャナ・プリンタの種類・利用方法を調べる。(20 分) 復習 自動転送メールが携帯電話で受信できることを確認する。携帯電話を用いて大学のメール (送受信) を利用する。(20 分)
3	Word 基本操作	文書作成、画像の挿入、印刷	予習 Word の機能 (書式、写真の挿入等) を調べる。(20 分) 復習 Word で写真入りの文書を作成し、カラー印刷する。(20 分)
4	Windows の基本操作、タイピング	デスクトップ、マウス、キーボード、ショートカットキー、タッチタイピング	予習 Windows、OS の機能・バージョンによる違いを調べる。(20 分) 復習 ショートカットキー・タイピングを e-learning により反復学習する。以後、 e-learning による学習は日々行い、身につけること。(40 分)
5	Windows 基本操作	ファイル操作、検索、スクリーンショット	予習 ファイルのコピー・移動・削除、検索方法を調べる。スクリーンショットのソフトウェアを調べる。(20 分) 復習 ファイル・フォルダ操作を実践して覚える。必要な情報にたどり着く検索方法を身につける。(20 分)
6	Windows 基本操作	アプリケーションソフト	予習 Office 以外のソフトウェア・フリーソフトを調べる。(20 分) 復習 実習室 PC にインストール済みのソフトウェアを起動し、機能を把握する。(20 分)
7	文書の作成	入力方式、入力モード、単語登録、オートコレクト、文書の保存	予習 教科書 p1～78 (第 1～2 章) の手順および HINT・POINT 等を理解する。(30 分) 復習 画面構成・リボン・タブ・キーの名称を覚える。入力方式・変換方法を理解する。(30 分)

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
8	文書の作成、修正	書式、箇条書き、インデント、アイコンの挿入、印刷、文書の再利用、コピー、切り取り、貼り付け、置換	予習 教科書 p79～124（第3～4章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（40分）
9	表を使った文書	表の挿入、罫線の種類・削除、行/列の挿入・削除、幅の調整、計算式、関数、表示形式	予習 教科書 p125～154（第5章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（40分）
10	年賀状の作成	年賀状作成、ワードアート、テキストボックス、画像挿入、トリミング、文字列の折り返し、宛名印刷、住所録の読み込み	予習 教科書 p155～184（第6章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（40分）
11	メニュー表の作成、レイアウトを整える、Word を使いこなす	段組み、書式のコピー/貼り付け、タブとリーダー、ページ罫線、ヘッダー、フッター、テンプレート、コメントの挿入、変更履歴の記録/承諾、文書の暗号化	予習 教科書 p185～236（第7～8章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（40分）
12	ほかのソフトウェアとデータをやりとりする、クラウドで使いこなす	Excel グラフの貼り付け、地図の貼り付け、PDF 形式で保存、OneDrive に保存、モバイルアプリ、文書の共有	予習 教科書 p237～309（第9～10章、付録）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（40分）
13	課題作成	情報収集、画像処理	予習 写真の収集・イラストを作成する。（30分）
			復習 学習した内容を活かして文書を作成し、印刷する。（30分）
14	課題作成	Word の機能を多用した文書作成、卒論フォーマットの作成	予習 配布資料により、教科書で学習していない Word の機能を理解する。（30分）
			復習 Word の機能を一通り理解して使いこなす。（30分）
15	総合演習	e-learning	予習 e-learning による反復学習をする。（40分）
			復習 Windows、Word、ショートカットキーを使いこなす。（20分）

◆授業計画（後期）

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	ガイダンス	Excel の特徴、新機能、ショートカットキー	予習 教科書 p1～38（第1章）の手順、画面構成・用語を理解する。（20分）
			復習 Excel の用途・機能を理解する。（20分）
2	基礎数学演習	Excel 指数表示、有効数字、割合、税計算、損益算、濃度算	予習 基礎数学演習の問題を解く。（30分）
			復習 Excel の数式入力に必要なとなる数学の知識を身につける。（30分）
3	基礎数学演習	e-learning による数学演習	予習 e-learning による反復学習を行う。（20分）
			復習 問題の効率的な解き方を覚える。（40分）
4	データ入力、セル・ワークシートの操作	データ入力と編集、オートフィル、オートコンプリート、コピー、貼り付け、行/列の挿入、削除、ブックの保存	予習 教科書 p39～92（第2～3章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（30分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（30分）

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
5	数式と関数、表のレイアウト	数式、関数、数式のコピー、絶対参照、相対参照、セルの書式設定、罫線	予習 教科書 p93～144（第4～5章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（30分）
6	印刷とページ設定、表を整える	印刷プレビュー、ヘッダー、フッター、印刷、表示形式、ユーザー定義書式、条件付き書式、データバー、スパークライン、クイック分析	予習 教科書 p145～184（第6～7章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（30分）
7	グラフの作成、データベースの作成	グラフ作成、書式設定、グラフの印刷、データベースの利用、データのソート、フィルター、改ページプレビュー、ウィンドウ枠の固定、フラッシュフィル	予習 教科書 p185～230（第8～9章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（30分）
8	Excel を使いこなす、クラウドで使いこなす	テンプレート、リボンのユーザー設定、ブックの暗号化、PDF 形式で保存、OneDrive に保存、Excel Online、モバイルアプリ、ブックの共有	予習 教科書 p231～311（第10～11章、付録）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（30分）
9	数式・関数の習得	数学/三角関数、論理関数、データベース関数、ワイルドカード	予習 教科書で学習していない Excel 関数を調べる。（30分）
			復習 「？」「*」の使い方を覚える。（30分）
10	数式・関数の習得	INT、ROUND、ROUNDDOWN、ROUNDUP、COUNT、COUNTA 等	予習 左記関数の意味と使い方を調べる。（30分）
			復習 左記関数と引数を理解し、使い方を覚える。（30分）
11	数式・関数の習得	MAX、MIN、IF、IFS、AND、OR、COUNTIF、COUNTIFS、COUNTBLANK、RANK.EQ、RANK.AVG、AVERAGEIF、AVERAGEIFS、SUMIF、SUMIFS 等	予習 左記関数の意味と使い方を調べる。（30分）
			復習 左記関数と引数を理解し、使い方を覚える。（30分）
12	総合演習	構成比、表示形式、消費税、原価、利益、成績判定	予習 第2回～3回基礎数学演習の内容を理解する。（30分）
			復習 左記を求めるための数式入力を実践して覚える。（30分）
13	総合演習	食塩相当量、エネルギー、BMI、適正体重、低体重/普通/肥満の判定	予習 第2回～3回基礎数学演習の内容を理解する。（30分）
			復習 左記を求めるための数式入力を実践して覚える。（30分）
14	総合演習	情報関数、配列数式、金利の計算、日本食品標準成分表を用いた計算 ISNUMBER、ISBLANK、VLOOKUP、XLOOKUP、IFERROR、ABS、LEFT、RIGHT、MID 等	予習 第9回～13回の関数・使い方を覚える。（30分）
			復習 左記を求めるための数式入力を実践して覚える。（30分）
15	総合演習	e-learning	予習 e-learning による反復学習をする。（20分）
			復習 Excel、ショートカットキーを使いこなす。（20分）

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
できる Word 2019	田中亘, できるシリーズ編集部	インプレス
できる Excel 2019	小舘由典, できるシリーズ編集部	インプレス

◆参考書

書 名	著 者	発行所
できる Windows 11 2025 年 改訂 4 版 Copilot 対応	法林岳之, 一ヶ谷兼乃, 清水理史, できるシリーズ編集部	インプレス
できる Excel 関数 Copilot 対応 Office 2024/2021/2019&Microsoft 365 版	尾崎裕子, できるシリーズ編集部	インプレス

◆関連科目

情報処理演習Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	30
学習に取り組む姿勢・意欲			

(補足)

- 前後期各 15 回の授業すべてに遅刻をせずに出席し、他の受講者の学習環境に配慮しつつ、堅実に取り組むことを前提として、「成績評価の方法・基準」により評価する。
- 予習・復習用の教材およびスマートフォンで練習できる e-learning 教材を用いて授業時間外の学習を行う。
(スマートフォンを所有していない場合は別途対応)
- 定期試験は、授業内および予習・復習用教材で扱った問題から出題され、パソコンを用いた実技および筆記試験を併用して行う。
- 「実技」は、パソコン操作 (ショートカットキー、タイピング、受講態度等)、小テストにより評価する。
小テスト (筆記・e-learning) は不定期に複数回行う。
- 授業内で作成する課題を「レポート」点として評価する。成果物の完成度のみならず、作成過程 (予習・復習をした上で効率よく作成できるか等) を重視する。
- ICT 授業支援システムを用いて、授業の理解度把握および質問受付を行う。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

課題ファイルに修正が必要な場合は、学生個別に解決策を提示し、再提出を求める。

◆受講上の注意事項及び助言

- 演習は、学生ファイルサーバー (学生共通¥全学年学生共通¥情報処理演習 2025) のシラバスにしたがって進める。
- 第 1 回授業で質問用の電子メールアドレスを周知する。
(学生 SharePoint ⇒ 10. 講義資料 ⇒ 情報処理演習 (岡本) ⇒ 連絡先メールアドレス・授業システム QR コード一覧)

◆オフィスアワー

受付時間：月～木曜日、16：10～17：00

受付場所：情報処理研究室

上記で対応できない場合：電子メールで質問を受け付ける。(曜日・時間は問わない)

(1 单位) (管理栄養学科・食品学科)

◆授業概要

本授業では、まず自身の体力を知り、その向上のための積極的な身体活動の方法を学び、そして身体活動の習慣化を目指す。授業は、基本的に体育館における実践形式とする。

1. 自分の体力レベルを把握し、その向上に努める。
2. 日常生活に身体活動を取り入れ、習慣化を図る。
3. 身体活動の種類と、それらのエネルギー消費量の違いを理解する。

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	ガイダンス	体育館にて体育実技の実施場所・実施方法などを説明する 目標を設定する	予習 シラバス・学生便覧を読むこと（30分） 復習 自宅周辺でウォーキング可能な経路を調べる（30分）
2	体力測定	体力測定（文科省新体力テスト） 体組成測定	予習 文科省新体力テストの実施方法を調べる（60分） 復習 最大酸素摂取量の推定方法をまとめる（60分）
3	ウォーキング① 身体トレーニング① 運動強度	自体重を用いた運動トレーニング 様々な身体活動のメッツ強度を理解する バドミントン	予習 「改訂版 身体活動のメッツ（METs）表」を読む（60分） 復習 身体活動によるエネルギー消費量の計算方法を復習する（30分）
4	ウォーキング② 身体トレーニング②	自体重を用いた運動トレーニング バスケットボール	予習 インナーマッスルについて調べる（60分） 復習 自宅でのトレーニング（30分）
5	ウォーキング③ 身体トレーニング③	自体重を用いた運動トレーニング ソフトバレー	予習 スクワットの方法と姿勢（30分） 復習 自宅でのトレーニング（30分）
6	ウォーキング④ 身体トレーニング④	自体重を用いた運動トレーニング フットサル	予習 ランジの方法（30分） 復習 自宅でのトレーニング（30分）
7	ウォーキング⑤ 身体トレーニング⑤ 疼痛予防	自体重・チューブを用いた運動トレーニング ティーボール 腰痛リスクの予防・回避	予習 チューブを用いたニーエクステンションの方法（30分） 復習 自宅でのトレーニング（30分）
8	ウォーキング⑥ 身体トレーニング、ダンス	自体重・チューブを用いた運動トレーニング ダンス	予習 アームレッグクロスレイズの方法（30分） 復習 自宅でのトレーニング（30分）
9	ウォーキング⑦ 身体トレーニング⑦ アダブテッドスポーツ	自体重・チューブを用いた運動トレーニング ボッチャ	予習 チューブを用いたスクワットの方法（30分） 復習 自宅でのトレーニング（30分）
10	ウォーキング⑧ 身体トレーニング⑧	自体重・チューブを用いた運動トレーニング トレーニングのアレンジ、卓球	予習 チューブを用いたニーアップの方法（30分） 復習 自宅でのトレーニング（30分）
11	ウォーキング⑨ 身体トレーニング⑨	自体重・チューブを用いた運動トレーニング トレーニングのアレンジ、インディアカ	予習 フレンチプレスの方法（30分） 復習 自宅でのトレーニング（30分）
12	ウォーキング⑩ 身体トレーニング⑩	自体重・チューブを用いた運動トレーニング トレーニングのアレンジ、バレーボール	予習 ツイストアップの方法（30分） 復習 自宅でのトレーニング（30分）
13	ウォーキング⑪ 身体トレーニング⑪	自体重・チューブを用いた運動トレーニング トレーニングのアレンジ、バスケットボール	予習 ブランクの方法（30分） 復習 自宅でのトレーニング（30分）

14	実技テスト	疼痛予防・回避のテスト 自体重を用いた筋力トレーニングのテスト フットサル	予習 体力測定の結果を確認する (30 分)
			復習 自宅でのトレーニング (30 分)
15	まとめ	トレーニングとその効果 卓球・3 色鬼ごっこ	予習 様々な筋力トレーニングのメッツ強度を確認する (30 分)
			復習 自宅でのトレーニング (30 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所

◆参考書

書 名	著 者	発行所
障害者スポーツの環境と可能性	藤田紀昭	創文企画

◆関連科目

保健体育、スポーツ・リクリエーション

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	10
レポート	20	実技 (発表・コミュニケーション)	50
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

(補足) レポートは、ウォーキング課題の成果とする。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポートに対するフィードバックは、体力測定 (ポスト) 結果へのコメントとともに行う。

◆受講上の注意事項及び助言

体育館を中心に運動を行うため、運動しやすい服装と内履き靴、飲み物の準備をしておくこと。
体調が悪い場合は、授業前に申し出ること。

◆オフィスアワー

受付時間： 開講時に指示する

受付場所： 6 号館 2 階体育学研究室

上記で対応できない場合： 第 1 回授業で質問用の電子メールアドレスを周知する。

スポーツ・リクリエーション

(1単位)

(管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前～後期
担当者氏名 膳法 浩史

◆授業概要

生涯にわたって楽しむことができるスポーツやリクリエーションを身につけると生活が豊かになる。
本講座は、下記の内容を行う。

- ①ウォーキングラリーの体験と提案
- ②チームビルディングイベントの体験と提案

実習は、教室、体育館およびイベント会場で実施する。

◆到達目標

1. リクリエーション活動に積極的に取り組む。
2. スポーツ・リクリエーションイベントの提案ができる。
3. スポーツ・リクリエーションイベントの運営ができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	ガイダンス	日時は履修登録者に対してメールで連絡を行う	予習 ウォーキングラリーについて調べる (60分)
			復習 会場までの道順を調べる (30分)
2	ウォーキングラリー①	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 会場周辺の情報を調べる (30分)
			復習 わからなかった用語を調べる (60分)
3	ウォーキングラリー②	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを確認する (30分)
			復習 わからなかった用語を調べる (30分)
4	ウォーキングラリー③	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 参加者のコメントを確認する (30分)
			復習 わからなかった用語を調べる (60分)
5	ウォーキングラリー④	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを復習する (30分)
			復習 わからなかった用語を調べる (30分)
6	ウォーキングラリー⑤	ウォーキングラリーイベントを分類し、議論する	予習 ウォーキングラリーの種類を調べる (30分)
			復習 議論した内容をまとめる (60分)
7	ウォーキングラリー⑥	東京聖栄大学を会場としたウォーキングラリーイベントを提案する	予習 ウォーキングラリーイベントを考える (60分)
			復習 提案した内容をまとめる (60分)
8	チームビルディング①	チームビルディングの基礎	予習 チームビルディングを調べる (60分)
			復習 用語をまとめる (30分)
9	チームビルディング②	チームビルディングの種類	予習 チームビルディングの種類を調べる (60分)
			復習 用語をまとめる (30分)
10	チームビルディング③	チームビルディングイベントの運営	予習 イベント運営の方法を調べる (60分)
			復習 イベント運営の心得をまとめる (30分)
11	チームビルディング④	チームビルディングの提案、議論	予習 新しいチームビルディングを考える (60分)
			復習 提案内容をまとめる (30分)
12	チームビルディング⑤	チームビルディングの練習を行う	予習 チームビルディングの方法を確認する (60分)
			復習 流れを再確認する (30分)
13	チームビルディング⑥	チームビルディングの練習を行う	予習 担当と流れを確認する (30分)
			復習 担当と流れを再確認する (60分)

14	レクリエーションイベント運営①	班に分かれてイベント運営を行う	予習 担当と流れを再確認する (30 分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30 分)
15	レクリエーションイベント運営②	班に分かれてイベント運営を行う	予習 各班のイベントを分類する (30 分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30 分)

※過去のウォーキングラリー： 2023 年度 銀座、2022 年度 神田万世橋、2020 年度 舞浜イクスピアリ

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所

◆参考書

書 名	著 者	発行所

◆関連科目
体育実技

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
レポート	20	実技 (発表・コミュニケーション)	80
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)			

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポートや発表に対して対面、メール、またはMoodleによって、フィードバックを行う。

◆受講上の注意事項及び助言

本実習は、集中授業であるため可能な限り欠席しないよう心掛けること。万が一、欠席する場合は個別に対応を行う。

◆オフィスアワー

受付時間： 毎回の講義終了後

受付場所： 6 号館 2 階体育学研究室

上記で対応できない場合： 質問用の電子メール (zenpou-h@tsc-05. ac. jp) で対応する。

英語 I (1 単位) (食品学科・管理栄養学科)

開講時期 1 年・前期

担当者氏名 植芝牧、田邊丈人、富樫壮央

◆授業概要

高校で習得しているはずの英語運用能力を、英単語、英文和訳、英作文、英会話の分野ごとに復習しながら、「食」と「健康」をテーマにしたテキストを用いてより高いレベルの英語力を習得させる。必要に応じて Moodle を使った自宅学習や英単語小テスト、課題提出、成績不振者のための補習授業を実施する。

◆到達目標

1. 英検準 1 級レベルの英単語を習得して使用できる。
2. TOEIC の Reading Part で 70% の得点ができる。
3. 日常英会話を聴いて理解できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	ディプロマポリシーと科目の関連説明。Ch.1 Why do people love sweets?	Ch.1 の Vocabulary の学修と Reading 練習	予習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)
			復習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)
2	Ch.1 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion	Ch.1 の Reading を精読し、内容を Listening と Idiom を通して習得する。並べ替え英作文も練習する。	予習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分)
			復習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分)
3	Ch.2 Do you have a “dessert stomach”?	Ch.2 の Vocabulary の学修と Reading 練習	予習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)
			復習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)
4	Ch.2 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion	Ch.2 の Reading を精読し、内容を Listening と Idiom を通して習得する。並べ替え英作文も練習する。	予習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分)
			復習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分)
5	Ch.3 Why is Japanese cuisine so popular?	Ch.3 の Vocabulary の学修と Reading 練習	予習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)
			復習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)
6	Ch.3 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion	Ch.3 の Reading を精読し、内容を Listening と Idiom を通して習得する。並べ替え英作文も練習する。留学生との英会話練習。	予習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分)
			復習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分)
7	Ch.4 Did you enjoy your school meals?	Ch.4 の Vocabulary の学修と Reading 練習 中間テスト対策	予習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)
			復習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)
8	中間テスト Ch.4 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion	50 分程度の中間テスト (Ch.1~4) Ch.4 の Reading を精読し、内容を Listening と Idiom を通して習得する。並べ替え英作文も練習する。	予習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分)
			復習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分)
9	Ch.5 Why did children dislike vegetables so much?	Ch.5 の Vocabulary の学修と Reading 練習	予習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)
			復習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)
10	Ch.5 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion	Ch.5 の Reading を精読し、内容を Listening と Idiom を通して習得する。並べ替え英作文も練習する。	予習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分)
			復習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分)
11	Ch.6 How do you wash your dishes and vegetables?	Ch.6 の Vocabulary の学修と Reading 練習	予習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)
			復習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)
12	Ch.6 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion	Ch.6 の Reading を精読し、内容を Listening と Idiom を通して習得する。並べ替え英作文も練習する。留学生との英会話練習。	予習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分)
			復習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分)
13	Ch.7 What a long way frozen food has come!	Ch.7 の Vocabulary の学修と Reading 練習	予習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)
			復習 Vocabulary と Reading の和訳 (30 分)

14	Ch. 7 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion	Ch. 7 の Reading を精読し、内容を Listening と Idiom を通して習得する。並べ替え英作文も練習する。	予習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分) 復習 Reading, Listening Comprehension, Words & Idioms, Sentence Completion (30 分)
15	前期末テスト対策	前期 8～14 回の授業を振り返る。また期末テストに不安を覚える学生を個別指導する。	予習 Ch. 4～7 の全ページ (60 分) 復習 Ch. 4～7 の全ページ (60 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
Living Well, Eating Well	Josh Norman 他	朝日出版

◆参考書

書 名	著 者	発行所
真・英文法大全	関正生	KADOKAWA

◆関連科目 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ 英会話Ⅰ・Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	中間 20%, 期末 30%	小テスト	10%
レポート	10%	実技 (発表・コミュニケーション)	10%
学習に取り組む姿勢・意欲	20% (含出席率)		

(補足) 5 回を越える欠席は受験停止。クラス担当の教員ごとに小テストの回数や課題の提出回数が異なる。
Moodle を利用した自宅学習を要求する場合もあるので詳細はクラス担当教員に確認すること。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

中間テストや小テストはできるだけ翌週に返却して解説する。

◆受講上の注意事項及び助言

テキストを必ず持参すること。忘れた場合は「学習に取り組む姿勢・意欲」から減点する。遅刻は 30 分を限度とし、それ以上遅れると欠席扱いにする。インフルエンザや新型コロナ感染者は診断書を学務課に提出すること。

◆オフィスアワー

受付時間： 植芝＝木曜日 14:00～17:00 田邊・富樫＝木曜日授業終了後

受付場所： 植芝＝4 号館 4 階英語研究室 田邊・富樫＝教室または学務課横の講師控え室

上記で対応できない場合： 各担当者に直接メールで質問する

フランス語Ⅰ

(1単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期

担当者氏名 松浦 寛

◆授業概要

アルファベットから始め、本授業は、実用的なコミュニケーション能力の学習に重点を置いています。文法も単に規則の羅列として覚えるのではなく、それが使われるフレーズや状況のなかで覚えることが重要です。各課は、会話・文法・演習・読解・文化の5つのパートからなっており、これらが有機的に結びついて学習できるようにしています。CDとともにビデオを教材として利用し、耳からだけでなく、目からもフランスを身近に感じて下さい。

◆到達目標

1. 初見のフランス語をすべて発音できるようにする。
2. 初歩的な会話のやりとりができるようにする。
3. 実用フランス語検定試験5級に合格できるようにする。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	オリエンテーション	アルファベットと発音	予習 pp.2-5 なし
			復習 30分 アルファベットを覚える
2	パリ到着	人称代名詞、être の活用	予習 pp.6-9 発音の規則を覚える
			復習 30分 être の活用を覚える
3	同上	同上	予習 30分 être の用法に習熟する
			復習 30分 avoir の活用を覚える
4	ホテルで	形容詞の性・数一致、avoir の活用	予習 pp.10-13 avoir の活用を覚える
			復習 30分 形容詞の変化を覚える
5	同上	同上	予習 30分 形容詞の変化を覚える
			復習 30分 形容詞の性・数一致に習熟する
6	ランデヴー	第1群規則動詞の活用	予習 p.14-17 -er 動詞の活用を覚える
			復習 30分 -er 動詞の用法に習熟する
7	同上	同上	予習 同上 -er 動詞の用法に習熟する
			復習 30分 形容詞の位置を覚える
8	カフェで	形容詞の位置と変化	予習 pp.18-21 形容詞の変化を覚える
			復習 30分 形容詞男性第2形を覚える
9	同上	同上	予習 30分 冠詞と形容詞の語順を覚える
			復習 30分 形容詞の用法のまとめ
10	電話をかける	人称代名詞の強勢形	予習 pp.22-25 人称代名詞の強勢形
			復習 30分 強勢形の用法に習熟する
11	同上	同上	予習 同上 30分 強勢形のまとめ
			復習 30分 強勢形の用法に習熟する
12	道を尋ねる	疑問代名詞、疑問副詞	予習 pp.26-29 疑問詞の形を覚える
			復習 30分 疑問代名詞の用法に習熟する
13	同上	同上	予習 同上 30分 疑問詞のまとめ
			復習 30分 疑問詞副詞の用法に習熟する
14	パリの中の日本	日仏文化交流	予習 pp.30-31 疑問詞のまとめ
			復習 30分 前期のまとめ
15	前期のまとめ	プリント等	予習 30分 前期のまとめ
			復習 30分 前期のまとめ

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
新・彼女は食いしん坊！1	藤田裕二	朝日出版社

◆参考書

書 名	著 者	発行所
プチ・ロワイヤル仏和辞典	倉方秀憲	旺文社
PC版・iphone・ipad版もある		

◆関連科目

なし。

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト・ノート提出	10
レポート	10	実技(発表・コミュニケーション)	30
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足) 実践的な科目なので、試験とともに出欠を重視する。

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

ノート提出後、内容をチェックし返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

科目の性質上、遅刻や欠席は極力避けたい。成績評価は、出欠状況を重視する。辞書は、上記紹介のもの以外でもかまわないが、2年次も使用する可能性があるため、各自で購入の上、必ず持参すること。

【辞書を持参しない者は受講できない】

◆オフィスアワー

受付時間：質問は、授業時に示す E-mail にて受け付ける。

中国語Ⅰ (1単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期
担当者氏名 崔 晨

◆授業概要

中国語は中国だけではなく、東南アジアなどの地域にも幅広く使う言語である。本授業では中国語の基礎である発音をはじめ、基礎的な会話、読解力、リスニングや文章力を身につけることを目的とする。中国の食文化を紹介することで食に関する中国語を取り上げることも授業の一環である。

◆到達目標

1. ピンインを勉強することによって中国語の発音を基礎から正しくできる。
2. リスニングを中心に中国語の語彙を増やし、基礎的な会話ができる。
3. 中国語の基本構文を学び、基礎的な文章力を身につけることができる。日中比較視点で中国の食文化を理解することも授業目標の一つである。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	中国語への招待 ① 単母音の発音 ② 複母音の発音	①年間の授業概要や方針の説明 ②中国語の特徴及びピンインの意味 ③単母音と複母音への発音練習	予習 母音と複母音。教科書 P. 11、12 読んでおくこと (60 分)
			復習 中国語ピンインの復習と声調の確認 (60 分)
2	ピンイン ① 子音 ② 声調	① 子音の役割及び発音練習 ② 声調の説明と発音練習	予習 発音編 (発音編 I) を読んでおく。(60 分)
			復習 教科書 CD を聞き、母音と子音の練習しておく。
3	ピンイン①声調変化 ② ピンイン練習 ③ 中国食文化の紹介	① 声調の変化。 ② ピンインについて総合的に練習 ③ 中国食文化の紹介①	予習 P14～19 の内容を読んでおく (60 分)
			復習 ピンインの組み合わせと声調を復習しておく (60 分)
4	基本的な挨拶 ① 挨拶 ② 教室用語	① 基本的な挨拶の学習 ② 基本的な教室用語の紹介	予習 基本挨拶と基本教室用語の予習 (60 分) (プリント配布)
			復習 簡単な挨拶と教室用語を復習しておく。(60 分)
5	第1課 ① 単語の学習 ② 文法の学習	① 第1課の単語の学習 ② 人称代名詞及び“是”の構文、疑問文 人称代名詞の学習	予習 第1課の単語を読んで予習しておく。(60 分)
			復習 P20 ～22 の文法を復習しておく。(60 分)
6	第1課 ① 文法 ③ 数字 ④ 中国食文化の紹介	① 指示代名詞の学習 ② 1～100 までの数字の学習 ③ 中国食文化の紹介②	予習 P22 の本文を予習しておく。(60 分)
			復習 第1課P22 文法ポイントを復習しておく (60 分)
7	第1課 ① 時刻と曜日 ② 文法の学習	① 時刻と曜日の表現 ② 反復疑問文の学習	予習 P23 の曜日と時刻を予習しておく。(60 分)
			復習 P23 の文法を復習しておく。(60 分)
8	第1課 ① 会話文 ③ 練習問題	①会話文の翻訳及びリスニングの学習 ②練習問題から応用する練習	予習 P21 の会話文を予習しておく。(60 分)
			復習 第1課の練習問題を復習しておく。(60 分)
9	第2課 ① 単語の学習 ② 文法の学習	① 第2課単語の学習 ② 形容詞述語文の学習	予習 第2課の単語を読んで予習しておく。(60 分)
			復習 P28 の文法を復習しておく。(60 分)
10	第2課 ① 文法 ② 中国食文化の紹介	① 形容詞述語文及び疑問文 ② 中国食文化の紹介③	予習 P29 の文法を予習しておく。(60 分)
			復習 P28-29 の文法を復習しておく (60 分)

11	第2課 ① 会話文 ② 練習問題	①会話文の翻訳及びリスニングの学習 ②練習問題から応用する練習	予習 第3課の単語を読んで予習しておく。(60分)
			復習 P34の文法を復習しておく。(60分)
12	第3課 ① 単語の学習 ② 文法の学習	① 第3課単語の学習 ② 動詞述語文の学習	予習 第3課の単語を予習しておく。(60分)
			復習 第3課の文法ポイントを復習しておく(60分)
13	第3課 ① 文法の学習 ② 中国食文化の紹介	① 所在と存在の表現 ② 中国食文化の紹介④	予習 P34-35の文法を予習しておく。(60分)
			復習 P34～35の文法を復習しておく。(60分)
14	第3課 ① 会話文 ② 練習問題	①会話文の翻訳及びリスニングの学習 ②練習問題から応用する練習	予習 第3課の会話文を予習しておく。(60分)
			復習 第3課の練習問題を復習しておく(60分)
15	前期のまとめ	第1課～第3課への重要ポイントへの復習	予習 第1課～第3課の単語の練習。(60分)
			復習 プリントを参考して総復習しておく(60分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
ぐんぐん伸びる中国語 1 —構文で学ぶ初級中国語	何珍時	朝日出版社

◆参考書

書 名	著 者	発行所
授業中資料として配布		

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	20
レポート	0	実技(発表・コミュニケーション)	20
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

(補足)

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

小テスト：前の週に通知、試験後に解説する

◆受講上の注意事項及び助言

授業中に集中することが大事です。

◆オフィスアワー

受付時間： 授業終了後に対応します。

受付場所： 教室 学務課

上記で対応できない場合：学務課に相談してください。

韓国語Ⅰ (1単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期

担当者氏名 塩谷 萌恵

◆授業概要

本授業では、韓国語の初習者を対象としています。ハングル文字と発音を一から学び、コミュニケーションをとるための基礎的な文法を学びます。K-FOOD や、韓国の食文化についても授業の中で紹介していきます。映像資料や音楽などにも触れながら楽しく韓国語の基本をマスターしていきましょう。

◆到達目標

1. ハングルの発音をしっかり身につけ、基本的な会話ができるようになる。
2. 初歩的な語彙や語句を習得して、日常的なやり取りについて受け答えができるようになる。
3. 自己紹介をするなど、個人的なトピックを表現できるようになることを目指す。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	韓国語入門 韓国語とハングル	① 授業ガイダンス ② 前期の目標設定 ③ 韓国語の特徴、ハングルの仕組み	予習 自己紹介シートの作成(10分)
			復習 振り返りシートの作成(10分)
2	第1課 文字と発音①	① 母音(1) ② 子音(1)	予習 第1課を読んでおく(40分)
			復習 振り返りシートの作成、Quizlet 及びプリントで復習(60分)
3	第1課 文字と発音②	① 母音(2) ② 子音(2) ③ 終声(1)	予習 第1課を読んでおく(40分)
			復習 振り返りシートの作成、Quizlet 及びプリントで復習(60分)
4	第2課 文字と発音③	① 子音(1)平音 ② 発音変化(1)有声音化	予習 第2課を読んでおく(40分)
			復習 振り返りシートの作成、Quizlet 及びプリントで復習(60分)
5	第2課 文字と発音④	① 複合母音 ② 発音変化(2)連音化	予習 第2課を読んでおく(40分)
			復習 振り返りシートの作成、Quizlet 及びプリントで復習(60分)
6	第3課 文字と発音⑤	① 子音(3)激音 ② 子音(4)濃音	予習 第3課を読んでおく(40分)
			復習 振り返りシートの作成、Quizlet 及びプリントで復習(60分)
7	第3課 文字と発音⑥	① 終声(2) ② 2文字のパッチム	予習 第3課を読んでおく(40分)
			復習 振り返りシートの作成、Quizlet 及びプリントで復習(60分)
8	文字と発音の総復習	発音の総復習	予習 Quizlet で総復習しておくこと(40分)
			復習 振り返りシートの作成(10分)
9	第4課	① 本文と単語の学習 ② ～は、～ですか？	予習 第4課を読んでおく(40分)
			復習 振り返りシートの作成、Quizlet 及びプリントで復習(60分)
10	第4課	① こそあど言葉 ② 会話及び作文の練習	予習 第4課を読んでおく(40分)
			復習 振り返りシートの作成、Quizlet 及びプリントで復習(60分)
11	第5課	① 本文と単語の学習 ② ～が	予習 第5課を読んでおく(40分)
			復習 振り返りシートの作成、Quizlet 及びプリントで復習(60分)
12	第5課	① 漢数詞 ② ～ではありません ③ 会話及び作文の練習	予習 第5課を読んでおく(40分)
			復習 振り返りシートの作成、Quizlet 及びプリントで復習(60分)
13	第6課	① 本文と単語の学習 ② ～に(場所・時間)	予習 第6課を読んでおく(40分)
			復習 振り返りシートの作成、Quizlet 及びプリントで復習(60分)

14	第6課	① あります、ありません ② 位置名詞 ③ 会話及び作文の練習	予習 第6課を読んでおく(40分)
			復習 振り返りシートの作成、Quizlet 及びプリントで復習(60分)
15	総まとめ	前期の総復習	予習 Quizlet で総復習しておくこと(40分)
			復習 振り返りシートの作成、復習プリント(60分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
キムチ① 韓国語入門	山崎玲美奈	朝日出版社

◆参考書

書 名	著 者	発行所
授業中資料として配布		

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	20
レポート(課題)	10	実技(発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

(補足)

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

・授業や復習時の疑問点は、振り返りシートより受け付け、次週の授業で解説する。

◆受講上の注意事項及び助言

言語文化の習得は、隣国との架け橋になるための第一歩になります。韓流ブームが単なるブームに終わることなく、更なる日韓の文化交流に至っていく事ができるよう、一緒に楽しく韓国語を習得していきましょう！

◆オフィスアワー

受付時間： 授業の前後に対応します。

受付場所： 学務課

上記で対応できない場合：メールにてご相談ください。

基礎調理実習Ⅰ

(1 単位) (食品学科)

開講時期 1 年・前期
担当者氏名 吉田 光一

◆授業概要

調理の目的は、食品を食べやすく、おいしく、栄養的な価値を高め、衛生上安全なものにすることである。そのための調理技術は経験的に行われることが多いが、調理の理論を科学的に理解することで、効率的に習得することができる。

本実習は調理学の講義を踏まえ、調理の基礎的知識と技術の習得を目標とする。授業内容は食品の選定、計量、切り方及び日本料理・西洋料理・中国料理の基本的な調理操作を習得することである。

◆到達目標

1. 切り方の基本と実践が出来る
2. 各料理の調理法の基本を覚える
3. 衛生的に食品を扱える

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	調理実習について	実習の注意事項、計量器具の取り扱い方 計量練習、レポートの書き方	予習 容量と重量の単位と計量 (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)
2	包丁法 (野菜の切り方 1)	大根・人参 (甘酢)、きゅうり、 キャベツ (マヨネーズ)	予習 切り方の名称を理解し実践する (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)
3	日本料理 1	白飯、清汁 (かきたま汁)、酢の物	予習 米の炊き方、合わせ酢について 出汁の種類 (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)
4	日本料理 2	沢煮椀、凍り豆腐含め煮、 ふきの青煮	予習 煮るを理解する 乾物のもどし方 (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)
5	日本料理 3	鰯の煮付け、茶碗蒸し、 ほうれん草の浸し	予習 蒸すを理解する 魚の種類 (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)
6	日本料理 4	炊きおこわ、鰯の姿焼き、清汁	予習 焼くを理解する 魚の構造 (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)
7	西洋料理 1	Salade de macedoine Potage puree Crecy (ブイヨン)	予習 フォンとブイオンを理解する 乳化型のドレッシング (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)
8	西洋料理 2	Sandwichies、 Salade de chou-fleur Hot tea	予習 パンと具の関係 分離型のドレッシング (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)
9	西洋料理 3	Chicken Indian Curry、 Gelee de cofe	予習 香辛料について ゼラチンの扱い方 (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)
10	西洋料理 4	Riz a la florentine、 Fricassee de poisson	予習 白系ソースを理解する 鶏肉について (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)
11	中国料理 1	什錦炒飯、焼売、烏龍茶の入れ方	予習 中国料理の道具 炒める (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)

12	中国料理 2	珍珠丸子、香酥魚	予習 挽肉の扱い方 ソースを理解する (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)
13	中国料理 3	咕咾肉 (搾菜炒肉絲、杏仁豆腐)	予習 合わせ調味料の使い方 豚肉について (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)
14	中国料理 4	乾焼明蝦 (涼拍黃瓜、清川鵝蛋)	予習 スープについて 甲殻類を理解する (30 分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30 分)
15	実技試験	切り方	予習 同材料を同じ大きさに切る (30 分)
			復習 成果を確認し、実践する (30 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
新版 調理実習書	浜島教子、富吉靖子、佐藤辰江	学建書院
新食品成分表 FOODS 2025		東京法令出版

◆参考書

書 名	著 者	発行所
調理と理論	山崎清子、島田キミエ	同文書院
総合調理科学事典	日本調理科学会 編	光生館
オールフォト食材図鑑	荒川信彦、唯是康彦 監修	調理栄養教育公社

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)

レポートは材料・作り方だけでなく調理のポイントや廃棄率等も計算し記入する。実習中に疑問に感じた点や興味を持ったことについて参考書等を利用して調べ記述する。

学習に取り組む姿勢・意欲については「積極的に実習に参加している」「できるだけ良いものを作ろうとする意識を持っている」「チームをリードして進めるように努めている」ことについて評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

実習後、各班に講評を行う。

レポート返却時に解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

予習・復習をしっかりとしておく。

◆オフィスアワー

受付時間：月曜日～金曜日 16:10～18:00

受付場所：調理学研究室

上記で対応できない場合：個別対応

フレッシュャーズセミナー（食の世界入門）

（1単位）（食品学科）

開講時期 1年・前期

担当者氏名 福留奈美 山本直子 吉田光一

◆授業概要

新入学生を対象に、食の楽しさ、食の世界の面白さと奥深さに気づくこと、本学での幅広い学びの領域を知ることなどを目的とした演習で、講義および体験型学習を行う。専門分野が異なる教員3名が担し、学びの3領域「調理食品・加工食品の開発・製造」、「衛生管理・品質管理」、「食の企画とマネジメント」に関連する専門科目や共通する基礎的科目の学修内容について導入的な解説を行う。カリキュラムツリーと履修モデルとの関連性、在学中に取得可能な資格、卒業研究・制作への取り組み等についても紹介する。

テーマに関する食材・加工品等を実際に喫食して官能評価を行うことや、注意深く観察する体験を取り入れることで、知識習得に加えて、経験を通じた気づきを促す。また、個人ワークだけでなく、ペアワーク、グループワークによる意見交換、発表等を組み合わせる。

◆到達目標

1. 食に関する幅広い学びの領域の全体像を概観し、自身の興味・関心の所在を認知できる。
2. カリキュラムツリーと履修モデルとの関連性を理解し、各年次で履修する科目選択の方向性を検討できる。
3. 食品の観察・評価体験を通して、五感で感じとったことや考えたことを自分の言葉で表現できるようになる。
4. 食品の原料や製法、規格、商品の品質や付加価値について自分なりの意見を述べられる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	食の世界へようこそ	ガイダンス、食に関わる仕事と資格・研究分野、官能評価体験1（福留・吉田・山本）	予習 食に関わる仕事・職業を調べる（30分） 復習 興味・関心を持った仕事や資格について詳しく調べてまとめる（30分）
2	「食材・素材」をどうとらえるか	身近な「食材・素材」とその構成要素、成分からパッケージ・広告まで、官能評価体験2（福留）	予習 食品売場をまわりどのような食材・素材が市場にあるのか調べる（30分） 復習 パッケージデザインと食品表示に注目し、興味ある商品を取り上げ考察する（30分）
3	「料理・菓子」をどうとらえるか	身近な「料理・菓子」とその構成要素、食情報の広がり、官能評価体験3（福留）	予習 レシピに含まれる情報とその表記方法について調べる（30分） 復習 興味のある料理・菓子を選び、その構成要素を分析的に考察する（30分）
4	食品を「科学的」にとらえるには	食品からのアプローチと調理法・道具からのアプローチ、官能評価体験4と検定方法（福留）	予習 官能評価1-3の結果を読み取る（30分） 復習 官能評価結果の科学的な読み取り方についてわかったことをまとめる（30分）
5	調理加工品における調味料	調味料がもたらす食品への効果、糖類から味の違いを学ぶ（吉田）	予習 調味料を調べる（30分） 復習 授業で体験したことを考察し応用してみる（30分）
6	調理加工における比重	密度がもたらす食品への効果、菓子生地から空気の役割を学ぶ（吉田）	予習 同名称食品の違いを調べる（30分） 復習 授業で体験したことを考察し応用してみる（30分）
7	調理加工における材料保存	食材の保存と下処理と味の違い（吉田）	予習 冷凍と冷蔵の定義を調べる（30分） 復習 店舗での状況を検証する（30分）
8	調理加工におけるデザイン	食品の形状と視覚効果、同容積をどう表現するか（吉田）	予習 同名称食品のデザインを調べる（30分） 復習 デザイン形状と商品の関係をまとめる（30分）
9	調理・加工品の安全性	食品の製造過程での安全性についての解説（山本）	予習 安全な食品って？考える。（30分） 復習 安全性はどの科目に関係するかまとめる。（60分）
10	食品分析 ミクロの世界1	食品成分の分析についての解説（山本）	予習 食品の成分って？考える。（30分） 復習 食品分析に関係する科目を調べる。（30分）
11	食品分析 ミクロの世界2	食品がヒトの体内でどのように変化するのかの解説（山本）	予習 食品の栄養成分を調べる。（30分） 復習 食品の体内での利用がどの科目に関係するのか調べる。（30分）

12	発酵食品	食品の発酵についての解説と発酵食品の紹介（山本）	予習 身近な発酵食品を探す。(30 分) 復習 発酵食品についてまとめる。(30 分)
13	食文化へのまなざし	食を通じた異文化理解について考える（福留）	予習 異文化交流の体験や異文化接触で感じたこと、考えたことを振り返る (30 分) 復習 異文化理解をすることの意義について自分なりの考えをまとめる (60 分)
14	食と SDGs とウェルビーイング	サステナブルな未来のための「食」、より良く幸せに生きるための「食」を考える (福留)	予習 自分の生活を豊かにするためにできそうなことを考え、まとめる (30 分) 復習 ウェルビーイングに貢献する食の在り方について考えをまとめる (30 分)
15	食の学びを深めるために	グループ討議・発表、まとめ (福留・吉田・山本)	予習 グループ討議の準備 (30 分) 復習 グループ討議・発表についての振り返りとまとめ (90 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
適宜、資料を配布する		

◆参考書

書 名	著 者	発行所
適宜、授業内で提示する		

◆関連科目

学科専門科目全般

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	0	小テスト	
レポート	60	実技（発表・コミュニケーション）	10
学習に取り組む姿勢・意欲	30		

（補足）

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

レポート等の提出物は、総評を授業内で行うか、または個別にコメントを加えて返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

毎回、異なるテーマで幅広い内容を取り上げる。理解を深めるためにも、事前に出される課題や予習のポイントを理解し、準備して授業に臨む必要がある。

◆オフィスアワー

福留奈美

受付時間：授業当日

受付場所：授業教室または4号館4階の食文化研究室

上記で対応できない場合：Eメールで受け付けます（fukutome-n@tsc-05.ac.jp）。

吉田光一

受付時間：16：10～18：00（月～金）

受付場所：調理学研究室

上記で対応できない場合：個別対応

山本直子

受付時間：授業日の放課後17時まで

受付場所：食品微生物学研究室（7号館2階）

上記で対応できない場合：メールにて対応する yamamoto.n@tsc-05.ac.jp

食品学科総合実習 (2単位) (食品学科)

開講時期 1年・前期 ～ 4年・後期

担当者氏名 荒木裕子 岡本直也 貝沼章子 片山佳子 北村義明 熊谷美智世 中島 肇
福田 亨 福留奈美 植芝 牧 山本直子 吉田光一 篠原優子

◆授業概要

食品学科総合実習は食品学科全学生の必修科目で、新入生宿泊研修、市場・食品工場見学、聖栄祭葛飾祭における学科企画、インターンシップ報告会参加、卒業研究報告会参加、Prog Test、成長実感アンケート、学修行動調査等が含まれます。大学で食品を学ぶための導入としての新入生宿泊研修では、食品学科の概要から学生生活を始めるに当たっての心構えを学ぶとともに、4年間共に学ぶ学友との絆を深めます。2年次の市場・食品工場見学では、フードチェーンの流れを理解するとともに、フードサービスビジネスや食品製造業での大規模工場での製造現場に触れることで、食品技術者としての卒業後の進路をイメージすることに役立ちます。また、入学時と4年次に行う Prog Test や毎年の成長実感アンケート等を通して、自らの成長度の確認や残された課題を認識することで、大学4年間での学修や自己研鑽の参考とすることができます。加えて、上級生のインターンシップ報告会や卒業研究発表会に参加することで、就職活動や卒業研究に積極的に取り組む意識を育みます。

◆到達目標

1. 大学入学の目的を再確認するとともに、同級生とのコミュニケーションを取ることができる。
2. フードチェーンを体感し食品産業の全体像を実感できる。
3. 自己分析を行い諸課題を認識するとともに、その対処に積極的に取り組むことができる。
4. 食の専門家として活躍できるイメージを持つことができる。

◆授業計画

	項 目	内 容	予習・復習（標準的な時間）
1 年 次	新入生宿泊研修	食品学科ガイダンス	予習 しおりの確認と準備（30分）
			復習 研修レポート作成（60分）
1 年 次	自分を知ろう（1）	Prog Test・成長実感アンケート・学修行動調査等	予習 なし
			復習 なし
2 年 次	市場・食品工場見学	大田市場、豊洲市場、食品工場等	予習 見学先を調べる（60分）
			復習 研修レポート作成（60分）
2 年 次	インターンシップ報告会	3年生のインターンシップ報告会参加	予習 インターンシップ先の会社を調べる（30分）
			復習 レポート作成（60分）
2 年 次	自分を知ろう（2）	学修成果の把握、成長実感アンケート・学修行動調査等	予習 なし
			復習 なし
3 年 次	聖栄葛飾祭学科企画	大学祭における学術発表、加工食品製造販売等の学科企画の企画、立案、運営	予習 企画案の立案（60分）
			復習 レポート作成（60分）
3 年 次	卒業研究発表会	4年生の卒業研究発表会参加	予習 プログラム・内容の確認（30分）
			復習 研修レポート作成（60分）

3 年 次	自分を知ろう (3)	学修成果の把握、成長実感アンケート・学修行動調査等	復習 なし
			復習 なし
4 年 次	大学生活を振り返る	Prog Test・成長実感アンケート等	復習 なし
			復習 なし

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
学修に取り組む姿勢・意欲	60	レポート	40

学修に取り組む姿勢・意欲：各単元に真剣に取り組む姿勢・積極的に取り組む姿勢を評価する。